



115

資料・データ編

キリンググループ環境方針

基本方針

キリンググループは、社会課題の解決による事業の持続的成長を経営の根幹に据え、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。

行動指針

事業活動のあらゆる側面で、環境に関わる社会課題の解決を経営の最重要課題の一つとして高い目標を設定し、トップのリーダーシップと従業員の全員参加で取り組みます。

■ コンプライアンス

私たちは事業活動に関連する環境の法規制・協定及び自主管理基準について、高いモラルで順守します。

■ 技術開発

私たちは革新的な技術や手段を創出・導入するとともに、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働して持続的に課題解決に取り組めます。

■ 環境マネジメント

私たちは環境マネジメントシステムを構築し、経営戦略と連動させて継続的に改善します。

■ 人材育成

私たちは自社およびその枠組みを超えて社会全体に、環境にポジティブな影響を創出し、実行できる人材を継続的に育成します。

■ コミュニケーション

私たちは透明性、信頼性の高い情報を発信し、広くステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

2021年10月改訂

プラスチックに関する方針

キリングroup プラスチックポリシー

1. PETボトルの資源循環を推進します。

キリングgroupが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用PET樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリングgroupは、PETボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を2027年までに50%に高めることを目指します。

また、PETボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済PETボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリングgroupでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済PETボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進めていきます。

2. ワンウェイプラスチック*の削減および他の素材への代替に努めます。

プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われています。キリングgroupは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

3. PETボトル原料の持続性向上を目指します。

キリングgroupでは、これまでも環境負荷軽減の観点からPETボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。

また、PETボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来のPETボトル樹脂導入の検討も進めていきます。

上記に加え、プラスチックの資源循環を推進していくための啓発活動や海岸清掃活動等へも積極的に参画していきます。また、キリンビバレッジでは、一般社団法人 全国清涼飲料連合会が昨年発表した「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言2018」に賛同し、「2030年までにPETボトルの100%有効利用」の実現に向けて、業界を挙げて取り組んでいきます。

2019年2月策定

関連情報→P.46～P.47

生物資源に関する方針

キリンググループ生物多様性保全宣言

キリンググループは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来に渡って「食と健康」の新たなよるこびを提供し続けるために、キリンググループは、生物多様性保全のための様々な活動を積極的に行います。

1. 生物多様性に配慮した資源利用を推進します

世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。

2. キリンググループの持つ技術を活かします

「食と健康」の新たなよるこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。

3. ステークホルダーと連携して取り組みます

従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。

4. 条約や法令に適切に対応します

生物多様性に係る条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

2010年10月策定・発表

キリンググループ持続可能な生物資源調達ガイドライン

■ 目的

「キリンググループ生物多様性保全宣言」に基づき、「生物資源の持続可能な調達」を続けるために、基本的な考え方を示します。

■ 適用範囲

キリンググループが日本国内で調達する生物資源において、リスク評価により森林の違法伐採や環境破壊等のリスクを伴うと判断した特定のものについて適用します。

■ 持続可能な生物資源調達ガイドライン

キリンググループは、対象とすると決めた生物資源について以下の原則のもとに調達を実施します。

1. 違法に森林を伐採して造成されたプランテーション、もしくは植林地に由来する原料ではないこと、また伐採にあたって原木生産地の法令を守り、適切な手続きで生産されたものであることが確認されたもの
2. 信頼できる第三者によって認証された農園・森林等に由来するもの
3. 環境破壊などを行っていると判断されている事業者が生産したものではないもの※

■ 実施と運用に関して

左記のガイドラインは、生物資源が抱える課題や地域による調達事情がそれぞれ異なることを考慮して、調達する産物の生物多様性上のリスクの評価にもとづいて定期的に見直しを行うとともに、各国または地域の特性を勘案し、別途行動計画を定めて段階的に実施することとします。

取り組みにあたっては、サプライヤーおよび専門家・NGOなどのステークホルダーと協力し、原料生産地で働く人々が生物資源の持続性を考慮した生産へ移行する支援も考慮しながら、長期的視点で取り組みを進めます。

■ 情報公開と外部コミュニケーション

取り組みの進捗状況は、サステナビリティレポートやWeb等を通じて、透明性を確保しながら公開するとともに、適切な外部コミュニケーションにより持続可能な生物資源の利用に向けたお客様やパートナー・社会の理解を促進します。

※ 現在のところFSCのPolicy for the Association of Organization with FSCを参照とします。

2012年12月策定、2013年6月発表

関連情報→P.26～P.35

キリングroup持続可能な生物資源利用行動計画

1. 紅茶

キリンビバレッジ株式会社が使用する紅茶葉の主要な原料生産地であるスリランカで、紅茶農園の持・続可能性向上を目指します。

- ・調達先のスリランカの紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。^{※1}
- ・レインフォレスト・アライアンス認証マーク付きの通年商品で認知度を向上させます。
- ・スリランカの紅茶農園にある水源地を保全します。

2. 紙

2020年に達成したキリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社でのFSC認証紙または古紙の使用比率100%を継続し、海外を含めたグループ会社全体に拡大していきます。

- ・紙製容器包装^{※2}は、2030年までに持続可能性に配慮したことが確認された紙^{※3}を100%使用します。^{※4}
- ・その他の紙は、持続可能性に配慮したことが確認された紙、または古紙を使用します。^{※5}

3. パーム油

国内事業が¹次原料および²次原料として使用しているパーム油について、RSPO認証証明取引を利用して100%対応します。

- ・1次原料はRSPOの認証クレジット^{※6}を利用して対応します。2030年までにはRSPO認証パーム油^{※7}の調達を開始し、順次切り替えていきます。
- ・2次原料は、RSPOの認証クレジットを利用して対応します。RSPO、サプライヤー、NGOおよびさまざまなステークホルダーと連携し、調達先がRSPO認証パーム油を原料として使用できるように取り組みを行っていきます。

4. コーヒー

キリンビバレッジ株式会社が使用するコーヒー豆の主要な原料生産地であるベトナムで、コーヒー農園の持続可能性向上を目指します。

- ・ベトナムのコーヒー農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。
- ・ベトナムのコーヒー農園の保水能力を向上させます。

5. 大豆

キリンビール株式会社が使用する大豆およびその加工品^{※8}において、持続可能性の高い農園の大豆を使用していきます。

- ・調達先の大豆農園を特定します。
- ・特定した大豆農園の持続可能性を確認します。

^{※1} 具体的な目標はCSVコミットメントで定めます。

^{※2} 限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品、法によって規制された商品等は除きます。

^{※3} FSC認証紙を優先し、困難な場合はFSC管理木材（コントロールウッド）、PEFC認証（持続可能性が確認された地域に限る）、キリングroup持続可能な生物資源調達ガイドラインに適合する紙の順とします。また認証等がない紙を使用する場合は、調達先へのアンケート等によって、持続可能性への配慮を確認します。

^{※4} 対象事業会社は、キリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、協和キリン株式会社、協和発酵バイオ株式会社、Lion Pty Ltd、小岩井乳業株式会社とします。対象となる容器の種類や達成年等はCSVコミットメントで定めます。

^{※5} 対象事業会社は^{※4}の対象事業会社に加えて、キリングroupロジスティクス株式会社、キリンシティ株式会社、Interfood Shareholding Company、Myanmar Brewery Ltd、Four Roses Distillery、LLCとします。具体的な目標は各社で定めます。

^{※6} Book and Claim方式

^{※7} IP (Identity Preserved)、SG (Segregation)、MB (Mass Balance) のいずれかに適合するもの

^{※8} 大豆タンパク

2013年2月策定 2021年7月改定

キリングroup遺伝資源アクセス管理原則

- 1.生物多様性に関する国際的な合意を尊重する。
- 2.遺伝資源へのアクセスは資源提供国の事前同意を得て行い、来歴不明の遺伝資源の持ち込み及びその利用は、行わない。
- 3.遺伝資源の利用は、これより生ずる利益の公正かつ衡平な分配を含め、国際条約に従い適切に管理する。

2010年10月策定・発表

商品開発での環境配慮

環境に配慮した容器包装等設計基本方針

1. 目的

地球の豊かなめぐみと環境を持続的なかたちで将来につなぎ、お客様と社会全体に価値を提供し続けるために、法令ならびに「環境に配慮した容器包装等設計指針」を遵守することにより、持続可能な容器包装の開発・普及、営業活動における廃棄物の削減およびリサイクルの推進を通して、資源循環システムの構築に貢献します。

2. 容器包装の開発・設計・採用の基本的考え方

- (1) 開発・設計に当たっては、内容物の品質保持・安全衛生と容器包装自体の安全性、製品情報の適正表示を前提に、環境適性、お客様の使いやすさ、輸送効率ならびに経済性を考慮する。
- (2) 採用に当たっては、さらにお客様の購入・飲用形態、販売形態および内容物の特性に応じたものを選択する。

3. 容器包装の開発・設計・採用に当たっての環境配慮の考え方

- (1) 調達からリサイクルまでの容器包装のライフサイクル全体での環境負荷低減を図り、自然環境への影響を最小限に抑える。
- (2) 資源有効利用、循環型社会の実現に寄与するために、リサイクルや廃棄が容易で環境負荷の少ない素材、再生可能資源を使用した素材を使用する。
- (3) 脱炭素社会の実現に寄与するために、容器包装製造および商品輸送工程でのエネルギー使用量および温室効果ガス発生量の少ない素材を選定する。
- (4) 廃棄処理時の環境汚染防止に配慮した素材を選定する。
- (5) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）+Renewable（持続可能な資源）は、次項に従って推進する。

4. 3R（発生抑制・再使用・再生利用）+Renewable（持続可能な資源）推進の指針

- (1) 発生抑制（Reduce）
 - ① 容器包装及び販売促進ツール等の軽量化に努め、材料の使用量の低減に努める。
 - ② リサイクル時や廃棄時に、折りたたみ、押しつぶし等により、できるだけ体積が小さくなるように減容化に努める。
 - ③ 簡易包装への切り替え、個別包装・外装の省略を推進し、包装の適正化に努める。
- (2) 再使用（Reuse）
 - ① 再使用および再充填の回数ができるだけ多くなるように努める。
 - ② 再使用および再充填に係る環境負荷ができるだけ少なくなるように努める。
- (3) 再生利用（Recycle）
 - ① 再生使用（水平リサイクル）を増やすように努める。
 - ② できるだけ単一素材を使用し、2種以上の素材を使用する場合は、容易に分離が可能となるように努める。
 - ③ 再生された素材および再生品使用比率の高い素材を使用するように努める。
 - ④ 分別排出、分別収集、選別を容易にする仕様・デザインに努める。
- (4) 持続可能な資源（Renewable）
 - ① バイオマス由来の素材を使用するように努める。

2021年12月24日改訂

※ キリングループでは、酒類や清涼飲料などの主要な容器については、適宜LCA（ライフサイクルアセスメント）を実施し、商品の特性、お客様の1回当たりの購入単位、主な販売店の形態、空容器回収の見込みなども総合的に考えた上で、容器を選択しています。

環境大臣への約束

エコ・ファーストの約束

キリングループは、お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます。

1. 持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行い、農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします。

- 2025年までに、スリランカの小規模紅茶農園10,000農園がレインフォレスト・アライアンス認証を取得できるように支援します。
- 2020年に達成したキリンホールディングス、キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンでの事務用紙のFSC認証紙または古紙の使用比率100%を継続し他事業にも拡大し、オフィスなどでのペーパーレス化も推進します。
- パーム油について継続して認証証明取引プログラムを利用して100%対応します。
- キリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの製品廃棄量を2025年に2015年比で75%削減します。

2. 原料として使用する水を持続可能な状態にし、事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します。

- 全国の工場を中心に「水源の森づくり」活動を継続します。
- 水の高効率利用の推進、排水負荷の最小化に取り組み、地域の水資源を守ります。
- 2020年に達成したスリランカ紅茶農園の水源5か所での保全活動を拡大し、水を大切にする教育を農園周辺の住民15,000人からさらに拡大して実施します。

3. 持続可能な容器包装を開発し普及し、容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します。

- 2027年末までに、国内においてPETボトルのリサイクル材使用比率を50%に高めます。
- 2050年には、リサイクル材やバイオマスなどを使用した持続可能な容器包装100%を目指します。
- 2020年に達成したキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの紙容器FSC認証紙使用比率100%を他事業にも拡大します。
- 国内の容器包装のリサイクルシステムの構築を牽引し、オフィスなどにおいても3Rを推進していきます。

4. バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにし、脱炭素社会構築に向けてリードします。

- 2050年までに、グループのバリューチェーン全体のGHG排出量をネットゼロにします。
- GHG排出量を2030年までに、2019年比でScope1とScope2の合計で50%、Scope3で30%削減します。
- RE100に加盟し、2040年までに自社の使用電力を再生可能エネルギー100%にします。

キリンホールディングス株式会社は、上記取り組みの進捗状況を確認し、その結果について環境省へ報告、ならびに定期的にレポートなどによる公表を行ってまいります。

2008年6月策定 2021年2月改訂

※ 環境省エコ・ファースト制度サイト <https://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/>

環境データ算定方法

(1)使用係数

エネルギー使用量の換算係数

	国内	海外
燃料	「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」係数	ライオン ・Australia - National Greenhouse Account Factors ・New Zealand - Measuring Emissions : Detailed Guide ・USA - GHG Emission Factors Hub
		上記以外「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」係数
電力	IEA (International Energy Agency : 国際エネルギー機関) などが用いている3.6(MJ/kWh)を使用。	
蒸気	消費側の理論発熱量 (1MJ/MJ) を使用。	

GHG排出量の排出係数

	国内	海外
燃料、蒸気	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(環境省・経済産業省)係数	ライオン ・Australia - National Greenhouse Account Factors ・New Zealand - Measuring Emissions : Detailed Guide ・USA - GHG Emission Factors Hub
		上記以外「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」(環境省・経済産業省) 係数
電力	・各電力事業者が広報する調整後排出係数 →ない場合は、当該年のIEA [Emission Factors] より国別の排出係数	
Scope3	2019年以降の算定で可能な範囲でIDEA (Inventory Database for Environmental Analysis : 国立研究開発法人産業技術総合研究所が提供するLCAデータベース) を使用 (2019年実績、2020年実績 : IDEA Ver.2.3を使用、2021年実績 : IDEA Ver.3.1を使用) 。その他、環境省排出原単位データベースや各業種のLCA報告書などの文献値を使用。	

(2)算定方法

キリングループのGHG排出量はGHGプロトコルに則って算定しています。

(3)集計範囲

グループ全体

事業	会社
国内ビール・スピリッツ事業	キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングバレーブルワリー、永昌源麒麟啤酒(珠海)、ブルックリンブルワリー・ジャパン
国内飲料事業	キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、北海道キリンビバレッジ、キリンメンテナンス・サービス、キリンビバレッジサービス各社(北海道、仙台、東京、中部、関西) キリンビバックス、東海ビバレッジサービス
オセアニア酒類事業	ライオン、New Belgium Brewing
医薬事業	協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション、協和キリンプラス、協和麒麟(中国)製薬、Kyowa Kirin
その他事業 (全社を含む)	メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、ミャンマー・ブルワリー、マンダレー・ブルワリー、インターフード、ベトナムキリンビバレッジ、 フォアローゼズディスティラリー、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、 協和エンジニアリング、Biokyowa、上海協和アミノ酸、 Thai Kyowa Biotechnologies、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、 キリンビジネスシステム、小岩井乳業、キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、 キリンエンジニアリング、キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングループロジスティクス

事業別集計内訳

上記「グループ全体」集計範囲の表を参照。

地域別集計内訳

地域	会社
日本	キリンビール、キリンディスティラリー、スプリングバレーブルワリー、ブルックリンブルワリー・ジャパン、永昌源、キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、北海道キリンビバレッジ、キリンメンテナンス・サービス、キリンビバレッジサービス各社(北海道、仙台、東京、中部、関西)、キリンビバックス、東海ビバレッジサービス、協和キリン、協和キリンフロンティア、協和メディカルプロモーション、協和キリンプラス、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、協和エンジニアリング、小岩井乳業、キリンエコー、キリンアンドコミュニケーションズ、キリンエンジニアリング、キリンシティ、キリンテクノシステム、キリングループロジスティクス、メルシャン、日本リカー、第一アルコール、ワインキュレーション、キリンホールディングス、キリンビジネスエキスパート、キリンビジネスシステム
オセアニア	ライオン
東南アジア	ミャンマー・ブルワリー、マンダレー・ブルワリー、インターフード、ベトナムキリンビバレッジ、Thai Kyowa Biotechnologies
その他	協和麒麟(中国)製薬、Kyowa Kirin、Biokyowa、上海協和アミノ酸、麒麟啤酒(珠海)、フォアローゼズディスティラリー、New Belgium Brewing

過去の報告対象組織の範囲

	2017年	2018年	2019年	2020年
国内ビール・スピリッツ事業	麒麟ビール 麒麟ディスティラリー スプリングバレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)	麒麟ビール 麒麟ディスティラリー スプリングバレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)	麒麟ビール 麒麟ディスティラリー スプリングバレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)	麒麟ビール 麒麟ディスティラリー スプリングバレーブルワリー 永昌源 麒麟啤酒(珠海)
国内飲料事業	麒麟ビバレッジ 信州ビバレッジ 麒麟ビバレッジバリューベンダー 北海道麒麟ビバレッジ 麒麟メンテナンス・サービス キリン・トロピカーナ 麒麟ビバレッジサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 函館ダイイチベンディング 麒麟ビバックス 東海ビバレッジサービス	麒麟ビバレッジ 信州ビバレッジ 麒麟ビバレッジバリューベンダー 北海道麒麟ビバレッジ 麒麟メンテナンス・サービス キリン・トロピカーナ 麒麟ビバレッジサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 函館ダイイチベンディング 麒麟ビバックス 東海ビバレッジサービス	麒麟ビバレッジ 信州ビバレッジ 北海道麒麟ビバレッジ 麒麟メンテナンス・サービス 麒麟ビバレッジサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 函館ダイイチベンディング 麒麟ビバックス 東海ビバレッジサービス	麒麟ビバレッジ 信州ビバレッジ 北海道麒麟ビバレッジ 麒麟メンテナンス・サービス 麒麟ビバレッジサービス各社 (北海道、仙台、東京、中部、関西) 麒麟ビバックス 東海ビバレッジサービス
オセアニア酒類事業	ライオン	ライオン	ライオン	ライオン New Belgium Brewing
医薬事業	協和発酵キリン 協和発酵麒麟(中国)製薬	協和キリン 協和発酵麒麟(中国)製薬	協和キリン 協和キリンフロンティア 協和メディカルプロモーション 協和キリンプラス 協和発酵麒麟(中国)製薬 Kyowa Kirin Pharmaceutical Research	協和キリン 協和キリンフロンティア 協和メディカルプロモーション 協和キリンプラス 協和発酵麒麟(中国)製薬 Kyowa Kirin Pharmaceutical Research
その他事業 (全社を含む)	メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビバレッジ AZUMA KIRIN フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル Biokyowa 上海協和アミノ酸 Thai Kyowa Biotechnologies キリンホールディングス キリン キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス	メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビバレッジ AZUMA KIRIN フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル Biokyowa 上海協和アミノ酸 Thai Kyowa Biotechnologies キリンホールディングス キリン キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス	メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビバレッジ AZUMA KIRIN フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル 協和エンジニアリング Biokyowa 上海協和アミノ酸 Thai Kyowa Biotechnologies キリンホールディングス キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス	メルシャン 日本リカー 第一アルコール ワインキュレーション ミャンマー・ブルワリー インターフード ベトナムキリンビバレッジ フォアローゼズディスティラリー 協和発酵バイオ 協和ファーマケミカル 協和エンジニアリング Biokyowa 上海協和アミノ酸 Thai Kyowa Biotechnologies キリンホールディングス キリンビジネスエキスパート キリンビジネスシステム 小岩井乳業 キリンエコー キリンアンドコミュニケーションズ キリンエンジニアリング キリンシティ キリンテクノシステム キリングループロジスティクス

Scope3排出量の集計範囲 (P.16、17、23、25、59、70、71、99、100、129、130)

事業	会社
国内ビール・スピリッツ事業	麒麟ビール、麒麟ディスティラリー、麒麟啤酒(珠海)
国内飲料事業	麒麟ビバレッジ、信州ビバレッジ
オセアニア酒類事業	ライオン、New Belgium Brewing
医薬事業	協和キリン、協和麒麟(中国)製薬、Kyowa Kirin
その他事業(全社を含む)	メルシャン、第一アルコール、ミャンマー・ブルワリー、インターフード、ベトナムキリンビバレッジ、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、Biokyowa、上海協和アミノ酸、Thai Kyowa Biotechnologies、キリンホールディングス、小岩井乳業、キリングループロジスティクス

水リスク評価対象事業所内訳 (P.81)

会社名	国名	工場数	備考
キリンビール	日本	9	北海道千歳、仙台、取手、横浜、名古屋、滋賀、神戸、岡山、福岡 ※キリンビバレッジ滋賀工場はキリンビール滋賀工場内に併設のため、キリンビール滋賀工場に含む
キリンディスティラリー	日本	1	御殿場
メルシャン	日本	3	八代、藤沢、勝沼ワイナリー
キリンビバレッジ	日本	1	湘南 ※キリンビバレッジ滋賀工場はキリンビール滋賀工場内に併設のため、キリンビール滋賀工場に含む
信州ビバレッジ	日本	1	
小岩井乳業	日本	2	小岩井、東京
協和キリン	日本	3	高崎、富士、宇部
	中国	1	協和麒麟(中国)製菓
協和医療開発	日本	1	
協和発酵バイオ	日本	2	山口事業所(防府)、山口事業所(宇部)
協和ファーマケミカル	日本	1	本社
Biokyoowa	アメリカ	1	
上海協和アミノ酸	中国	1	
Thai Kyowa Biotechnologies	タイ	1	
麒麟啤酒(珠海)	中国	1	
インターフード	ベトナム	1	
ベトナムキリンビバレッジ	ベトナム	1	
フォアローゼズディスティラリー	アメリカ	2	Lawrenceburg, Cox's Creek
ミャンマー・ブルワリー	ミャンマー	1	
ライオン	オーストラリア	6	Castlemaine Perkins, James Boag Brewery, Little Creatures Brewery Fremantle, Tooheys Brewery, Little Creatures Brewery Geelong, Malt Shovel Brewery
	ニュージーランド	3	Pride Brewery, Speights Brewery, Wither Hills Winery
New Belgium Brewing	アメリカ	2	Fort Collins, Asheville

環境会計

環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	具体的な内容	投資額			費用額		
		2019年	2020年	2021年	2019年	2020年	2021年
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる 環境負荷抑制のための環境保全コスト（下記①②③の計）		1,243	1,406	2,671	5,854	4,856	4,750
①公害防止コスト	大気汚染・水質汚濁の防止活動、 大気・水質などの分析測定	536	319	1,995	2,330	2,075	2,301
②地球環境 保全コスト	太陽光発電、CO2回収、省エネルギー、 コージェネレーション 他	655	1,064	632	854	814	885
③資源循環コスト	汚泥減量化、廃棄物再資源化、用水循環 他	53	23	45	2,669	1,968	1,565
上下流コスト	容器包装リサイクル法 再商品化委託費用	86	54	221	375	475	464
管理活動コスト	環境マネジメントシステム運用、 環境教育、事業所内緑化 他	35	65	13	300	301	278
研究開発コスト	容器軽量化、副産物・排水などの 環境負荷低減に関する研究開発	63	40	103	131	158	443
社会活動コスト	水のめぐみを守る活動など環境保全活動 費用、自然保護団体への寄付 他	0	0	0	49	38	48
環境損傷対応コスト		0	0	0	0	5	0
その他		131	0	0	186	0	0
計		1,559	1,566	3,008	6,895	5,834	5,983

経済効果

(単位:百万円)

項目	内容	2019年	2020年	2021年
有価物などの売却額	廃棄物再資源化 他	949	656	625
資源節約効果額	省エネルギー、廃棄物削減、省資源 他	591	548	409

集計範囲:キリンビール、キリンディスティラリー、永昌源、キリンビバレッジ、信州ビバレッジ、メルシャン、協和キリン、協和発酵バイオ、協和ファーマケミカル、小岩井乳業、キリンホールディングス

マテリアルバランス

マテリアルフロー（2021年、グループ全体）

	単位	ス ピ リ ッ ツ 事 業	国内 ビール・ ス ピ リ ッ ツ 事 業	国内 飲料事業	酒 類 事業	オ セ ア ニア	医 薬 事業	そ の 他 事業	合計		
									2021年	2020年	2019年
物質	千t	425	61	353	1	375	1,214	1,308	1,431		
	%	35	5	29	0.05	31	100				
原料	千t	263	25	153	0.1	294	735	784	889		
包装資材	千t	162	36	200	0.5	81	480	524	542		
水（淡水のみ）	千m ³	14,132	1,916	3,001	1,673	29,556	50,278	55,702	65,823		
	%	28	4	6	3	59	100				
水循環的利用量	千m ³	1,000	279	236	3,717	85,552	90,784	93,651	121,334		
エネルギー	TJ	3,885	825	1,203	613	4,396	10,922	11,182	11,421		
	%	36	8	11	6	40	100				
生産量	酒類・飲料	千kl	2,737	611	782	0	542	4,672	4,994	5,055	
	食品／医薬・ バイオケミカル	千t	7	0	0	0.3	25	33	62	93	
排水	千m ³	11,725	1,595	1,826	1,814	31,364	48,323	52,340	65,214		
	%	24	3	4	4	65	100				
GHG排出量 （Scope1+Scope2）	千tCO ₂ e	214	49	75	41	343	722	757	834		
	%	30	7	10	6	48	100				
NOx	t	131	22	161	4	37	356	403	380		
SOx	t	1.3	0.1	1	0	10	12	10	13		
廃棄物	千t	135	11	80	2	85	312	272	431		
	%	43	3	26	0.6	27	100				
場内処理量	千t	0	0	0	0.3	21	22	3	2		
廃棄物資源化量	千t	133	11	79	2	62	286	264	423		
最終処分量	千t	2	0	1	0.1	1	5	5	5		

マテリアルフロー（2021年、主要事業・会社）

		日本の酒類事業・飲料事業 主要会社				医薬事業
		キリン ビール	キリン ビバレッジ	メルシャン		
物質総投入量		t	389,843	36,658	151,935	592
※リターナブル包装資 材を除く	原料	t	246,106	15,031	134,499	127
	包装資材	t	143,737	21,627	17,436	465
水資源総投入量		m ³	12,251,638	884,254	3,840,189	1,672,724
	上水（市水）	m ³	1,530,173	559,021	285,673	258,394
	工業用水（工水）	m ³	9,859,182	0	669,244	1,114,380
	河川水	m ³	0	0	292	0
	地下水	m ³	862,283	325,233	2,884,980	299,950
水循環的総利用量		m ³	853,226	278,697	9,265,329	3,717,000
※原則、冷却水を除く	リユース水	m ³	715,859	0	48,629	1,090,000
	リサイクル水	m ³	137,367	278,697	9,216,700	2,627,000
エネルギー使用総量 （＝電力＋化石燃料＋再生可能エネルギー＋自給エネルギー）		GJ	3,417,415	563,092	895,615	613,223
エネルギー 種類別の使用量	購入電力（再エネを除く）	kWh	96,417,493	22,194,639	13,046,569	46,754,474
	自家発電電力量（再エネを除く）	kWh	75,237,613	12,814,448	1,408,510	0
	A重油	kl	0	0	6,936	11
	都市ガス	Nm ³	58,869,077	6,976,187	1,012,760	5,528,339
	LPGガス	t	97	62	0	0
	石炭	t	0	0	0	0
	軽油	kl	436	2,310	1	0
	灯油	kl	42	0	0	1,328
	ガソリン	kl	564	1,169	70	1,276
	購入蒸気	GJ	0	0	527,600	6,801
	液化天然ガス	t	0	0	0	0
	天然ガス（LNGを除く）	Nm ³	0	0	0	181,852
	再生可能エネルギー・ 自給エネルギー 使用量	太陽光	GJ	79,553	209	0
バイオマス		GJ	0	0	2,027	0
風力		GJ	0	0	0	0
水力		GJ	70,992	36,793	0	88,708
排水バイオガス		GJ	240,000	2,943	0	0
製品生産量（酒類・飲料）		千kl	2,262	355	204	0
製品生産量（医薬・バイオケミカル）		t	0	0	0	329
総排水量 ※冷却水を除く		m ³	10,332,770	563,203	1,999,784	1,813,629
廃棄物総排出量		t	119,741	6,770	1,302	1,955
	場内処理量	t	0	0	404	260
	廃棄物資源化量	t	119,741	6,770	898	1,621
	最終処分量	t	0	0	0	74

水資源

用水使用量・用水原単位の推移（グループ全体）

	用水使用量 (千m ³)	用水原単位 (売上収益あたり) (m ³ /百万円)
2017年	76,968	41
2018年	73,675	38
2019年	65,823	34
2020年	55,702	30
2021年	50,278	28

用水使用量の推移（事業別）

	国内ビール・スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計
2017年	13,190	2,341	2,854	3,047	55,534	76,968
2018年	14,049	2,345	2,733	2,309	52,238	73,675
2019年	14,470	2,211	2,658	2,232	44,252	65,823
2020年	14,295	1,815	3,145	1,747	34,700	55,702
2021年	14,132	1,916	3,001	1,673	29,556	50,278

用水使用量の推移（地域別）

	日 本	オセアニア	東南アジア	その他	合計
2017年	61,721	2,854	2,500	9,892	76,968
2018年	58,120	2,733	2,811	10,011	73,675
2019年	50,333	2,658	3,654	9,178	65,823
2020年	40,187	2,689	3,449	9,377	55,702
2021年	35,485	2,483	2,945	9,365	50,278

取水源別年間用水使用量の推移（グループ全体）

	単位	上水	河川(工水含む)	淡水※1 地下水	雨水	中水※2(再生水)	合計
2017年	千m ³	7,200	42,150	27,616	1	0	76,968
	%	9	55	36	0.0	0.0	100
2018年	千m ³	7,717	40,415	25,543	0	0	73,675
	%	10	55	35	0.0	0.0	100
2019年	千m ³	8,283	35,679	21,861	0	0	65,823
	%	13	54	33	0.0	0.0	100
2020年	千m ³	8,657	24,936	22,109	0	0	55,702
	%	16	45	40	0.0	0.0	100
2021年	千m ³	8,253	21,035	20,989	1	0	50,278
	%	16	42	42	0.0	0.0	100

※1 海水および採石場で採取された水の使用はありません。

※2 外部から供給されている中水

国内主要会社の用水使用量・用水原単位の推移

	単位	麒麟ビール	麒麟 ディスティラリー	麒麟ビバレッジ	信州ビバレッジ	メルシャン
2017年	千m ³	11,199	1,383	968	1,374	3,391
	m ³ /kl	5.3	3.2	2.2	5.2	25.5
2018年	千m ³	12,006	1,379	971	1,374	3,240
	m ³ /kl	5.3	3.1	2.1	5.3	22.5
2019年	千m ³	12,509	1,380	968	1,243	2,825
	m ³ /kl	5.3	3.1	2.2	4.8	19.8
2020年	千m ³	12,280	1,386	925	890	3,669
	m ³ /kl	5.3	3.3	2.3	4.2	19.6
2021年	千m ³	12,252	1,358	884	1,032	3,840
	m ³ /kl	5.4	3.6	2.5	4.0	18.8

※ キリンビバレッジ滋賀工場分は麒麟ビール滋賀工場と併設のため、麒麟ビールに含まれています。

容器包装

容器包装の資源利用量

	単位	国内ビール・ スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア 酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計
2017年	千t	219	51	296	0.3	117	683
	%	32	7	43	0.04	17	100
2018年	千t	179	51	281	0.2	115	626
	%	29	8	45	0.03	18	100
2019年	千t	178	49	249	0.6	65	542
	%	33	9	46	0.1	12	100
2020年	千t	181	37	239	0.5	66	524
	%	35	7	46	0.1	13	100
2021年	千t	162	36	200	0.5	81	480
	%	34	7	42	0.1	17	100

容器別資源利用量（国内主要会社）

（単位：t）

		アルミ缶	スチール缶	PETボトル	ガラスびん	紙パック	カートン	6缶パック
2017年	削減量	30,031	—	7,710	1,332	—	8,792	3,444
	使用量	66,915	11,295	60,561	31,276	6,311	102,693	13,974
2018年	削減量	19,226	—	12,218	870	—	5,798	3,629
	使用量	73,724	9,424	68,677	31,183	6,515	107,771	13,969
2019年	削減量	22,975	—	11,998	340	—	5,910	3,646
	使用量	77,912	8,542	74,894	27,844	7,825	109,526	14,611
2020年	削減量	24,177	—	12,244	248	—	6,237	4,008
	使用量	81,137	6,876	67,061	23,853	6,995	103,738	15,601
2021年	削減量	24,130	—	11,346	333	—	6,242	4,083
	使用量	81,200	6,495	67,089	20,719	7,623	103,682	15,852

※ 削減量はキリンビール、キリンビバレッジの合計、使用量はキリンビール、キリンビバレッジ、メルシャンの合計です。

工場・事業所内における水の循環的利用量の推移（グループ全体）

	単位	循環的利用量			循環的利用率（%）
		リユース水	リサイクル水	合計	
2017年	千m ³	15,123	90,944	106,067	44
	%	14.3	85.7	100.0	
2018年	千m ³	18,993	105,010	124,003	63
	%	15.3	84.7	100.0	
2019年	千m ³	15,901	105,433	121,334	65
	%	13.1	86.9	100.0	
2020年	千m ³	3,864	89,788	93,651	63
	%	4.1	95.9	100.0	
2021年	千m ³	1,978	88,805	90,784	64
	%	2.2	97.8	100.0	

放出先別排水量の推移（グループ全体）

	単位	排水量				合計
		下水	河川等への 直接排水	海への直接排水	その他*	
2017年	千m ³	5,252	27,679	38,518	16	71,466
	%	7	39	54	0.0	100
2018年	千m ³	4,850	26,063	38,560	17	69,491
	%	7	38	55	0.0	100
2019年	千m ³	7,512	24,593	33,091	18	65,214
	%	12	38	51	0.0	100
2020年	千m ³	7,396	23,587	21,342	15	52,340
	%	14	45	41	0.0	100
2021年	千m ³	7,273	23,835	17,194	21	48,323
	%	15	49	36	0.0	100

※ 地下および井戸への排水はありません。

(参考) 国内におけるその他容器のリサイクル率等の推移

キリングループは容器リサイクルに関する国内の業界団体と連携して取り組みを推進しています。

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	目標*
アルミ缶	消費重量 (千t)	341	336	331	330	331	—
	再資源化重量 (千t)	315	310	309	324	311	—
	リサイクル率 (%)	92.4	92.5	93.6	97.9	94.0	92%以上
スチール缶	消費重量 (千t)	463	451	439	427	393	—
	再資源化重量 (千t)	435	422	404	398	369	—
	リサイクル率 (%)	94.0	93.4	92.0	93.3	94.0	90%以上
PETボトル	指定PETボトル販売量 (千t)	596	587	626	593	551	—
	国内再資源化量 (千t)	279	298	334	327	344	—
	海外再資源化量 (千t)	221	201	195	182	144	—
	使用済PETボトル再資源化量 (千t)	500	498	529	509	488	—
	リサイクル率 (%)	83.9	84.8	84.6	85.8	88.5	85%以上
ガラスびん	総溶解量 (千t)	1,606	1,583	1,553	1,465	1,352	—
	カレット使用量 (千t)	1,211	1,189	1,160	1,103	1,053	—
	カレット使用率 (%)	75.4	75.1	74.7	75.3	77.9	—
	リサイクル率 (%)	71.0	69.2	68.9	67.6	69.0	70%以上

※ 第4次自主行動計画 (2025年度) のリサイクル率目標

リターナブルびん販売回収状況 (キリンビール)

	販売量 (百万本)	回収量 (百万本)	回収率 (%)
2017年	224.6	227.8	101
2018年	205.1	203.2	99
2019年	182.6	182.3	100
2020年	107.3	114.6	107
2021年	89.5	88.1	98

※ 主要なリターナブルびん (大びん、中びん、小びん) の集計値。

※ キリンビールでは、ビールびん、業務用生大樽の再使用に取り組んでいます。容器の多様化に伴いリターナブルびんの使用量は減少していますが、その回収率は95%を超えています。

気候変動

✔を付けている2021年の実績は、KPMGあずさサステナビリティによる、国際保証業務基準 (ISAE) 3000、ISAE3410に準拠した第三者の保証を受けています。

GHG排出量の推移

■Scope1 (直接的排出) +Scope2 (エネルギーの利用に伴う間接的排出)

GHG排出量・排出原単位の推移 (グループ全体)

	GHG排出量 (千tCO ₂ e)		GHG排出原単位 (売上収益あたり) (tCO ₂ e/百万円)
	(うちCO ₂)		IFRS
2017年	860	(858)	0.46
2018年	849	(847)	0.44
2019年	834	(833)	0.43
2020年	757	(756)	0.41
2021年	722	(721)	0.40

GHG排出量の推移 (事業別)

(単位: 千tCO₂e)

	国内ビール・スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計 ✔
2017年	231	61	110	62	396	860
2018年	232	59	98	55	405	849
2019年	232	56	104	56	386	834
2020年	224	52	81	44	356	757
2021年	214	49	75	41	343	722

GHG排出量の推移 (地域別)

(単位: 千tCO₂e)

	日 本	オセアニア	東南アジア	その他	合計 ✔
2017年	581	110	50	119	860
2018年	570	98	57	124	849
2019年	520	84	78	152	834
2020年	463	62	73	159	757
2021年	446	57	63	155	722

工場からのGHG排出量・排出原単位の推移

(a) キリンビール

	GHG排出量 (千tCO ₂ e)	GHG排出原単位 (kgCO ₂ e/kl)
2017年	191	90
2018年	195	85
2019年	196	84
2020年	189	82
2021年	182	80

※ GHG排出量には、販売電力分のGHG排出量を含む

(b) キリンビバレッジ

	湘南工場	
	GHG排出量 (千tCO ₂ e)	GHG排出原単位 (kgCO ₂ e/kl)
2017年	28	64
2018年	27	60
2019年	26	59
2020年	25	62
2021年	23	66

(c) メルシャン*

	GHG排出量 (千tCO ₂ e)
2017年	29
2018年	30
2019年	25
2020年	44
2021年	59

※ 2020年7月より協和発酵バイオからメルシャンへアルコール事業を移管

(d) 協和キリン (グローバル)

	GHG排出原単位 (千tCO ₂ e/t)
2018年	253
2019年	124
2020年	106
2021年	113

エネルギー使用量の推移 (グループ全体)

エネルギー種別使用量	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
総使用量 (TJ)	11,750	11,843	11,421	11,182	10,922
石炭 (t)	2,294	2,339	2,079	1,613	1,678
ガソリン (kl)	3,599	3,619	4,751	3,706	3,518
灯油 (kl)	1,466	1,399	1,342	1,379	1,398
軽油 (kl)	13,762	12,548	14,836	14,572	13,028
重油 (kl)	12,475	14,006	9,430	7,429	7,313
LPG (t)	2,673	2,737	2,832	2,672	2,652
都市ガス (千Nm ³)	110,950	112,987	96,747	95,972	96,751
LNG (t)	0	0	0	0	0
購入電力 (MWh)	674,012	676,770	648,373	610,613	525,146
再生可能電力 (MWh)	23,848	31,657	31,943	74,439	114,912
購入蒸気 (TJ)	1,925	1,886	1,654	1,461	1,496
その他 (TJ)	1,078	1,092	1,721	1,760	1,659

GHG排出量の内訳および推移

■ Scope1 (直接的排出)

燃料の使用に伴うGHG排出量の推移 (事業別)

(単位: 千tCO₂e)

	国内ビール・ スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア 酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計 
2017年	164	44	41	21	103	372
2018年	168	42	40	18	110	377
2019年	169	40	53	20	110	393
2020年	162	38	46	19	106	372
2021年	164	36	44	19	104	368

燃料の使用に伴うGHG排出量の推移 (地域別) (単位:千tCO₂e)

	日本	オセアニア	東南アジア	その他	合計 
2017年	266	41	21	44	372
2018年	271	40	21	46	377
2019年	264	41	27	60	393
2020年	253	36	24	60	372
2021年	251	33	24	60	368

Scope1におけるGHG排出量の内訳 (2021年) (単位:千tCO₂e)

二酸化炭素 (CO ₂)	メタン (CH ₄)	一酸化二窒素 (N ₂ O)	ハイドロフルオロカーボン (HFCs)	パーフルオロカーボン (PFCs)	六フッ化硫黄 (SF ₆)
368	0.1	0.1	0	0	0

■ Scope2 (エネルギーの利用に伴う間接的排出)

電力および蒸気の購入に伴うGHG排出量の推移 (事業別) (単位:千tCO₂e)

	国内ビール・ スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア 酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計 
2017年	67	17	69	41	293	488
2018年	64	17	59	37	295	472
2019年	62	16	51	35	277	441
2020年	61	14	34	24	250	384
2021年	50	13	31	22	238	354

電力および蒸気の購入に伴うGHG排出量の推移 (地域別) (単位:千tCO₂e)

	日本	オセアニア	東南アジア	その他	合計 
2017年	315	69	28	75	488
2018年	299	59	36	79	472
2019年	256	43	50	92	441
2020年	209	26	50	99	384
2021年	195	24	40	95	354

■ Scope3 (その他の間接的排出)

※ Scope3排出量について、2019年以降でライオンの飲料事業を除外し、排出原単位を産総研が提供するLCAデータベース (IDEA) へ変更しています。

事業活動に関連する他者のGHG排出量の推移 (事業別) 集計範囲はP.122 (単位:千tCO₂e)

	国内ビール・ スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア 酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計
2017年	1,413	1,060	1,083	15	793	4,364
2018年	1,483	1,060	761	14	845	4,163
2019年	1,653	1,128	487	18	926	4,211
2020年	1,587	989	486	12	908	3,983
2021年	1,519	911	465	13	781	3,689

事業活動に関連するGHG排出量の推移 (地域別) 集計範囲はP.122 (単位:千tCO₂e)

	日本	オセアニア	東南アジア	その他	合計
2017年	3,081	1,083	152	47	4,364
2018年	3,145	761	209	48	4,163
2019年	3,340	369	314	188	4,211
2020年	3,103	354	319	206	3,983
2021年	2,919	338	235	197	3,689

製品輸送量・輸送距離および製品輸送に伴うCO₂排出量*の推移(国内)

		麒麟ビール	麒麟ビバレッジ	メルシャン	合計
2016年	輸送量 (千 t・km)	641,171	830,808	87,036	1,559,015
	CO ₂ 排出量 (千 t-CO ₂)	52	71	8	131
2017年	輸送量 (千 t・km)	735,996	822,256	87,904	1,646,156
	CO ₂ 排出量 (千 t-CO ₂)	55	68	8	131
2018年	輸送量 (千 t・km)	823,267	906,144	94,212	1,823,623
	CO ₂ 排出量 (千 t-CO ₂)	62	84	8	155
2019年	輸送量 (千 t・km)	755,308	963,748	90,991	1,810,047
	CO ₂ 排出量 (千 t-CO ₂)	55	76	8	139
2020年	輸送量 (千 t・km)	798,798	800,682	114,687	1,714,167
	CO ₂ 排出量 (千 t-CO ₂)	56	64	9	129

※ 集計期間は、各年ともに4月～翌年3月。「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の算定基準に沿い、特定荷主の報告対象範囲で算定。

第三者保証

キリンググループは、情報の信頼性・透明性の確保を目的として第三者による保証を受けています。
2021年はキリンググループ全体のScope1、Scope2、およびキリンビール・キリンビバレッジ・メルシャンのScope3排出量について、第三者保証を取得しています。第三者保証報告書は、**P.153** をご覧ください。

キリンググループ全体のScope1、Scope2算定結果^{*1} (2021年)  (単位:tCO₂e/年)

Scope1	Scope2
367,742	353,811

キリンビール・キリンビバレッジ・メルシャンのScope3算定結果^{*2} (2021年)  (単位:tCO₂e/年)

上流／下流	Scope3のカテゴリー	算定結果	備考
上流	1 購入した製品・サービス	1,591,062	原料・資材の購入量にそれぞれの原料・資材の製造時の排出原単位を乗じて算定。排出原単位は、IDEA v3.1の排出原単位等を使用。
	2 資本財	—	算定していない
	3 Scope1,2 に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	72,986	燃料や電力の購入量にエネルギー種別の排出原単位を乗じて算定。排出原単位は、電気・蒸気については環境省排出原単位データベース (Ver.3.1)、燃料についてはIDEA v3.1の排出原単位を使用。
	4 輸送・配送 (上流)	332,903	荷主としての製品出荷量及び原料・資材の購入量に輸送距離を乗じ、輸送手段別の排出原単位を乗じて算定 (なお、荷主としての製品出荷量に基づくCO ₂ 排出量は2020年度データを用いて算出)。排出原単位は、IDEA v3.1の排出原単位を使用。
	5 事業から出る廃棄物	6,546	廃棄物排出量等に廃棄処理方法別の排出原単位を乗じて算定。排出原単位は、IDEA v3.1及び環境省排出原単位データベース (Ver.3.1) を使用。
	6 出張	763	従業員数に移動方法別の平均年間移動距離を乗じ、移動方法毎の排出原単位を乗じて、また新型コロナウイルスの感染拡大防止のための出張制限割合も考慮し算定。排出原単位は、IDEA v3.1の排出原単位を使用。
	7 雇用者の通勤	4,769	従業員数に移動方法別の平均年間移動距離を乗じ、移動方法毎の排出原単位を乗じて、また新型コロナウイルスの感染拡大防止のための出社割合も考慮し算定。排出原単位は、IDEA v3.1の排出原単位を使用。
	8 リース資産 (上流)	—	Scope1、2に含む
下流	9 輸送・配送 (下流)	617,740	消費者までの流通段階における保管・販売時の排出量として算定。販売先：製品販売量に販売形態別の販売時の排出原単位を乗じて算定。自販機：稼働自販機の推定電力消費量に電力の排出係数を乗じて算定。(即から販売店舗までの輸送については算定に含めていない) 排出原単位は、流通業のカーボンフットプリント資料から引用。
	10 販売した製品の加工	—	該当せず
	11 販売した製品の使用	2,498	製品規格値から製品注成分CO ₂ 量を算定し、大気への放出量として算入 (最終消費者が購入後の製品の冷蔵段階の排出量はGHGプロトコルで任意算定項目のため今回より算定対象外とした)
	12 販売した製品の廃棄	27,380	容器包装の排出量に容器包装種別の排出原単位を乗じて算定。排出原単位は、IDEA v3.1及び環境省排出原単位データベース (Ver.3.1) を使用。

上流／下流	Scope3のカテゴリー	算定結果	備考
下流	13 リース資産 (下流)	—	該当せず
	14 フランチャイズ	—	該当せず
	15 投資	—	該当せず
合計		2,656,645	

SBTによるGHG排出量中期削減目標^{*3}に対する進捗 (2021年) (単位:tCO₂e)

■ Scope1+2	合計
Scope1+Scope2	721,553
Scope1	367,742
Scope2	353,811
増減比率 (2019年比)	-13%

■ Scope3	集計範囲はP.122	合計
Scope3		3,688,961
上流	1 購入した製品・サービス	2,230,657
	2 資本財	—
	3 Scope1,2 に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	173,449
	4 輸送、配送 (上流)	433,015
	5 事業から出る廃棄物	25,750
	6 出張	4,690
	7 雇用者の通勤	13,280
	8 リース資産 (上流)	—
下流	9 輸送、配送 (下流)	765,018
	10 販売した製品の加工	—
	11 販売した製品の使用	8,719
	12 販売した製品の廃棄	34,383
	13 リース資産 (下流)	—
	14 フランチャイズ	—
	15 投資	—
増減比率 (2019年比)		-12%

^{*1} Scope1、2排出量の算定方法
・燃料、蒸気：日本の「地球温暖化対策の推進に関する法律」および「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の単位発熱量および排出係数を用いて算定。ただし、ライオンは、オーストラリア政府・ニュージーランド政府・アメリカ政府が定める単位発熱量および排出係数を用いて算定。
・電力：購入電力量に各電力事業者が広報する調整後排出係数 (広報値がない場合はIEA公表の国別排出係数) を乗じて算定。
・GHG排出量には、販売電力分のGHG排出量を含む。

^{*2} Scope3の算定で使用する排出原単位の出典について、2021年実績の算定から可能な範囲でIDEA (Inventory Database for Environmental Analysis: 国立研究開発法人 産業技術総合研究所が提供するLCAデータベース) へ変更しています。

^{*3} 2030年までに2019年比でScope1とScope2の合計を50%削減、Scope3を30%削減

キリンビール工場のバイオガス発電量、バイオガス発生量の推移

	バイオガス発電量 (単位:百万kWh)	バイオガス発生量 (単位:千Nm ³)
2017年	19.2	8,115
2018年	18.6	8,689
2019年	21.9	9,009
2020年	22.5	8,526
2021年	18.6	7,547

缶・ボトル飲料自動販売機出荷1台あたりの年間消費電力量の推移

	年間消費電力量 (単位:kWh/年)
2016年	724
2017年	712
2018年	702
2019年	704
2021年	715

出典:日本自動販売システム機械工業会

使用電力の内訳 (グループ全体)

(単位:千kWh)

		2019年	2020年	2021年
購入電力量	再生可能エネルギー			
	太陽光	—	18,546	36,380
	水力	30,476	53,753	65,335
	風力	499	403	283
	バイオマス	—	—	10,563
	合計	30,974	72,703	112,561
	再生可能エネルギー以外	648,373	610,613	525,146
自家発電量	バイオガス発電量	22,291	25,313	22,474
	太陽光発電量	968	1,736	2,351
	再生可能エネルギー以外の発電量	162,120	135,476	146,142
使用電力量		864,727	845,842	808,674
	うち再生可能エネルギー量 (エネルギーミックスを除く)	54,233	99,752	137,386

GHG排出量削減のための導入技術、導入設備 (国内)

	太陽光発電	バイオガスボイラー	バイオガスエンジン式 コージェネレーション システム
キリンビール	北海道工場	—	○ 2009年
	仙台工場	—	○ 2005年
	取手工場	○ 2007年 (20 kW)	○ 1999年
	横浜工場	○ 2006年 (30 kW)	○ 2008年
	名古屋工場	○ 2008年 (20 kW)	—
	滋賀工場	○ 2006年 (10 kW)	○ 2009年
	神戸工場	○ 2005年 (20 kW)	○ 1996年
	岡山工場	○ 2007年 (20 kW)	○ 2011年
キリンビバレッジ	福岡工場	○ 2006年 (20 kW)	○ 2012年
	湘南工場	○ 2006年 (60 kW)	○ 2014年
	東京リサーチパーク	○ 2010年 (20 kW)	—
	高崎工場	○ 2013年 (30 kW)	—
協和キリン	富士リサーチパーク	○ 2008年 (20 kW)	—
	宇部工場	○ 2012年 (45kW)	—
小岩井乳業	小岩井工場	○ 1996年 (10 kW)	—
信州ビバレッジ	本社工場	○ 2015年 (8.8kW)	—

※ 再生可能エネルギーについては上記の他、2021・2022年よりキリンビール8工場でPPAモデルによる大規模太陽光発電を導入しています。また、横浜市風力発電事業に協賛し、発電された電力の利用を証明する「グリーン電力証書」の発行を受けて「ココニフ」や「SPRING VALLEY BREWERY TOKYO」で使用しています。詳しくはP.61、63をご覧ください。

※ キリンビール、キリンビバレッジでは、排水処理に嫌気処理設備を導入していますが、この際に副生成物としてメタンを主成分とするバイオガスが回収できます。このバイオガスは再生可能エネルギーで、コージェネレーションやボイラーの燃料とすることでGHGの排出抑制に貢献しています。

グリーンボンド

第18回無担保普通社債（グリーンボンド）資金充当状況・インパクトレポート（2021年12月時点）

調達金額	未充当金額
100億円	66億円

プロジェクト名称	概要	インパクトレポート
再生PET樹脂の調達	再生PET樹脂は使用済みのPETボトルをメカニカルリサイクルすることで製造されるものです。PETボトルの原料に利用することで、PETボトルをPETボトルに再生することが可能となり、化石資源の利用削減につながるほか、石油由来のPETボトルの製造と比較し、製造段階のGHG排出量が約50～60%削減されることが示されています。日本では年間に613千tのPETボトルが製造されているのに対し、PETボトルの原料に利用された再生PET樹脂の量は72.7千tにとどまっており、PETボトル製造における再生PET樹脂の利用拡大が求められています。 充当済金額（累計）：32億円（リファイナンス割合65.8%）	 グループ全体における 2021年のリサイクルPET樹脂比率は 4.9%となっております。
工場における ヒートポンプシステム導入	ヒートポンプシステムは空気や水から低温熱源を回収し、エネルギーを加えることで、高温エネルギーに転換する技術です。 産業用では、廃気や排熱などの未利熱源を使って高温エネルギーを生成し、加熱、保温、殺菌、乾燥、洗浄、蒸留といった生産プロセスで適用されています。 キリングループでは、製造プロセスによるGHG排出の大半を占める、加熱工程のための化石燃料の燃焼を、ヒートポンプシステムによって代替することを予定しており、また、エネルギー源として使用する電力を再生可能エネルギーによって調達することで、よりGHG排出量の少ない製造システムの整備に取り組んでいます。 日本国内5工場にてヒートポンプシステム導入が完了しております。 充当済金額（累計）：2億円（リファイナンス割合89.2%）	 ヒートポンプシステム導入による 2021年度のGHG削減量は 2,500tとなっております。

廃棄物削減と汚染の防止

廃棄物発生量 (2021年)

(単位:千t カッコ内は%)

国内ビール・スピリッツ事業	国内飲料事業	オセアニア酒類事業	医薬事業	その他事業 (全社を含む)	合計
135 (43)	11 (3)	80 (26)	2 (0.6)	85 (27)	312 (100)

廃棄物発生量と再資源化率の推移 (国内)

	廃棄物発生量 (千t)	場内処理量 (千t)	廃棄物資源化量 (千t)	最終処分量 (千t)	再資源化率 (%)
2017年	243	24	219	0.6	99.7
2018年	245	12	233	0.7	99.7
2019年	230	2	227	0.6	99.8
2020年	151	3	148	0.3	99.8
2021年	155	3	151	0.4	99.7

排水品質の状況

	COD (t)				窒素 (t)			リン (t)		
	国内	海外	総計	原単位※	国内	海外	総計	国内	海外	総計
2019年	735	3,682	4,417	5.6	315	754	1,069	47	265	312
2020年	620	5,010	5,630	6.8	205	766	971	48	265	313
2021年	546	1,792	2,338	8.3	209	529	739	34	66	101

※ 協和キリン (グローバル) (単位:kg/ t)

大気汚染物質の排出量の推移

NOx、SOx排出量の推移 (グループ全体)

(単位: t)

	NOx	SOx
2017年	400	94
2018年	397	19
2019年	380	13
2020年	403	10
2021年	356	12

VOC排出量の推移 (国内、協和キリングループ、協和発酵バイオグループ)

(単位: t)

	メタノール	アセトン	PRTR法対象物質	酢酸エチル他	合計
2017年	417	21	62	97	596
2018年	308	13	57	103	481
2019年	183	8	49	74	314
2020年	144	6	35	57	242
2021年	232	4	47	110	393

土壌の調査状況 (2021年)

調査件数 (件)	調査面積 (m ²)
2	7,469

PCB管理状況 (2021年)

(単位:台)

高濃度 コンデンサ・リアクトルなど	微量 コンデンサ・リアクトルなど	高濃度安定器	微量安定器
1	31	5	0

アスベスト管理状況 (2021年)

建屋数 (棟)	面積 (m ²)
4	2,440

HCFC管理状況 (2021年)

事務所数 (カ所)	重量 (kg)
14	23,094

HFC管理状況 (2021年)

事務所数 (カ所)	重量 (kg)
9	15,246

化学物質管理

PRTR法第1種指定化学物質排出量の推移 (国内、協和キリングループ・協和発酵バイオグループ) (単位: t)

政令指定番号	物質名称	2019年			2020年			2021年		
		大気排出量	水域排出量	土壌排出量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量
2	アクリルアミド	0.00	0.00	0.00						
9	アクリロニトリル※1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
13	アセトニトリル	0.02	0.26	0.00	0.08	0.32	0.00	0.05	0.33	0.00
20	2-アミノエタノール	0.0001	0.00	0.00						
59	エチレンジアミン	0.00	0.00	0.00						
60	エチレンジアミン四酢酸	0.00	0.00	0.00				0.00	0.00	0.00
71	塩化第二鉄	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
80	キシレン	0.97	0.00	0.00	0.21	0.00	0.00	0.82	0.00	0.00
82	銀及びその水溶性化合物	0.00	0.00	0.00						
87	クロム及び三価クロム化合物	0.00	0.00	0.00				0.00	0.00	0.00
104	クロロジフルオロメタン(別名HCFC-22)	0.001	0.00	0.00						
127	クロロホルム※1	2.34	0.21	0.00	0.004	0.15	0.00	1.63	0.09	0.00
132	コバルト及びその化合物	0.00	0.00	0.00						
137	シアナミド	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
186	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)※1	1.15	0.001	0.00	1.94	0.001	0.00	1.55	0.001	0.00
215	2,6-ジメチルアニリン	0.00	0.003	0.00				0.00	0.001	0.00
218	ジメチルアミン	0.14	0.37	0.00	0.12	0.31	0.00	0.07	0.18	0.00
232	N,N-ジメチルホルムアミド	2.53	0.34	0.00	3.60	1.64	0.00	0.27	0.14	0.00
234	臭素							0.00	0.00	0.00
272	銅水溶性塩(錯塩を除く)	0.00	0.00	0.00						
275	ドデシル硫酸ナトリウム※2	0.00	0.01	0.00				0.00	0.00	0.00
282	トリクロロ酢酸	0.00	0.00	0.00						
300	トルエン	33.3	0.02	0.00	19.44	0.02	0.00	33.77	0.02	0.00
305	鉛化合物	0.00	0.00	0.00				0.00	0.00	0.00
308	ニッケル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
309	ニッケル化合物	0.00	0.57	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.32	0.00
342	ピリジン	0.01	0.10	0.00	0.01	0.08	0.00	0.02	0.07	0.00
349	フェノール	0.00	0.00	0.00						
392	ノルマルヘキサン※2	8.00	0.00	0.00	9.97	0.00	0.00	9.20	0.00	0.00
395	ペルオキシニ硫酸の水溶性塩	0.00	0.00	0.00						
405	ほう素化合物	0.00	2.59	0.00	0.00	1.80	0.00	0.00	2.02	0.00
408	ポリ(オキシエチレン)＝オクチルフェニルエーテル	0.00	0.00	0.00						

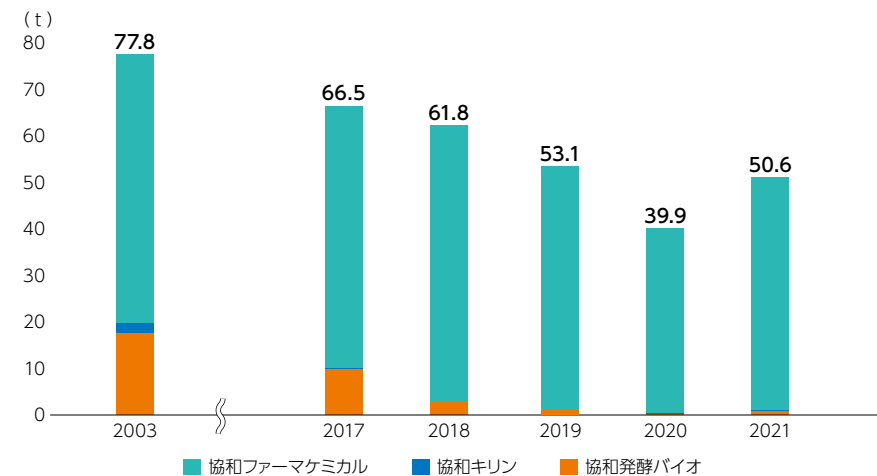
政令指定番号	物質名称	2019年			2020年			2021年		
		大気排出量	水域排出量	土壌排出量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量	大気排出量	水域排出量	土壌排出量
411	ホルムアルデヒド※1	0.005	0.00	0.00				0.001	0.00	0.00
438	メチルナフタレン	0.17	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00	0.01	0.00	0.00
462	りん酸トリノルマルブチル	0.00	0.00	0.00						
合 計		48.64	4.47	0.00	35.37	4.48	0.00	47.40	3.18	0.00

※1 化学業界が定めた12化学物質に含まれる物質

※2 PRTR法改正により2010年度から新規に第1種指定化学物質に追加されたもの

※3 0:使用実績あり、排出なし データなし:使用実績なし

PRTR 法第1種指定化学物質排出量の推移



サイトデータ

キリンビール (2021年) ※1

工場	エネルギー原単位 (GJ/kl)	用水原単位 (m³/kl)	GHG排出原単位 (kgCO₂e/kl)	排水原単位 (m³/kl)
北海道千歳工場	1.53	4.6	138	3.4
仙台工場	1.57	11.9	82	11.9
取手工場	1.06	4.8	46	4.1
横浜工場	3.67	6.6	181	4.6
名古屋工場	1.11	4.6	54	4.0
滋賀工場※2	1.27	4.1	77	3.4
神戸工場	1.20	3.9	68	3.7
岡山工場	1.05	5.3	68	4.2
福岡工場	1.42	5.5	81	5.3

※1 エネルギー原単位、GHG排出原単位には、販売電力分を含む。

キリンビバレッジ※2 (2021年)

工場	用水使用量 (千m³)	GHG排出量 (千tCO₂e)	廃棄物排出量 (t)	再資源化率 (%)
湘南工場	884	23	6,770	100

※2 キリンビバレッジ滋賀工場分はキリンビール滋賀工場と併設のため、キリンビールに含まれています。

メルシャン (2021年)

工場	用水使用量 (千m³)	GHG排出量 (千tCO₂e)	廃棄物排出量 (t)	再資源化率 (%)
藤沢工場	284	6	132	100
八代工場	2,035	20	1,034	100
防府工場	1,482	32	1	100
シャトー・メルシャン	39	0.4	27	100

協和キリングループ (国内、2021年)

工場	用水使用量 (千m³)	GHG排出量 (tCO₂e)	廃棄物排出量 (t)
協和キリン 東京リサーチパーク	15	2,536	59
協和キリン 富士リサーチパーク／CMC研究センター	1,284	13,635	198
協和キリン バイオ生産技術研究所／高崎工場	276	10,100	659
協和キリン 宇部工場	77	7,927	414

小岩井乳業

工場	用水原単位(m³/t)※3		
	2019年	2020年	2021年
小岩井工場	59	58	53

※3 乳製品の用水原単位

環境マネジメント認証取得状況

2022年6月現在の状況です。

日本

事業会社	事業所	種類
麒麟ビール	統合認証 (10)	自己適合宣言
麒麟ビバレッジ	統合認証 (3)	自己適合宣言
メルシャン	統合認証 (3)	自己適合宣言
麒麟ディスティラリー	富士御殿場蒸溜所 (1)	自己適合宣言
信州ビバレッジ	本社工場	第三者認証
協和麒麟	高崎工場、宇部工場、東京リサーチパーク、富士事業場	自己適合宣言
協和発酵バイオ	本社、山口事業所	第三者認証
協和ファーマケミカル	協和ファーマケミカル	第三者認証

第三者認証取得事業所数	4
自己適合宣言事業所数	21
認証未取得事業所数	2
取得率 (%)	93

海外

事業会社	事業所	種類
ライオン	Little Creatures Brewery Fremantle Little Creatures Brewery Geelong Little Creatures Packaging O'Connor Malt Shovel Brewery Castlemaine Perkins Brewery James Boag Brewery Tooheys Brewery Pride Brewery Speights Brewery Wither Hills Winery	第三者認証
	ベトナム麒麟ビバレッジ	第三者認証
	麒麟啤酒 (珠海)	第三者認証
	ミャンマー・ブルワリー	第三者認証
	協和発酵バイオ	第三者認証

認証取得事業所数	14
認証未取得事業所数	8
取得率 (%)	64

環境への取り組みの歴史

環境年表

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2022年	■「生物多様性のための30by30アライアンス」に加盟(4月) ■GPIFの国内株式運用機関が選出(優れたTCFD開示)に選定(3月) ■「SBTネットゼロ」認定取得(7月)	■キリンビール仙台工場で購入する全電力を100%再生可能エネルギー化(1月) ■「シャトー・メルシャン」3ワイナリーで購入する全電力を100%再生可能エネルギー化(1月)	■「キリン 生茶 紙シール付ラベルレス」首都圏エリアの一部の量販店でテスト販売開始(4月) ■「キリン 生茶」で、ラベル短尺化、再生PET樹脂を100%使用した[R100ペットボトル]を拡大(3月) ■「酵素でペットボトルをリサイクル」PET分解酵素の産業応用にに向けた共同研究を開始(1月)	—
2021年	■Science Based Targets Networkが主催するコーポレートエンゲージメントプログラムに参画(3月) ■認証農園茶葉を使った「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」250ml 紙パック(LLスリム)発売(8月) ■「キリングループ持続可能な生物資源利用行動計画」改訂(9月) ■「自然関連財務情報開示タスクフォース」(TNFD)の“The TNFD Forum”に参画(12月)	■国内ビール4工場PPAモデル導入太陽光発電電力活用 ■キリンビール名古屋工場購入全電力100%再生可能エネルギー化 ■キリンビール国内全工場へ大規模太陽光発電設備導入(12月)	■「キリン 生茶」キリン 生茶ほうじ煎茶」に再生PET樹脂100%利用[R100ペットボトル]採用拡大・ラベルレス商品発売(3月)	—
2020年	■「キリングループ環境ビジョン2050」発表(2月) ■共同書簡「Business Ambition for 1.5℃」、「Uniting Business and Governments to Recover Better」に署名(6月) ■「RE100」に加盟(11月) ■「キリンホールディングスグリーンボンド」発行(11月) ■「SBT1.5℃」目標認証取得(12月)	—	■国内飲料事業で、紙容器へのFSC認証紙使用率100%達成(12月) ■「自動販売機用商品で「ロールラベル」採用(12月) ■「午後の紅茶」「生茶」等大型PETボトル約16%軽量化(12月) ■中高生対象「キリン・スクール・チャレンジ」オンライン実施開始(6月)	■小学生向けSDGs副教材「SDGsスタートブック」協賛 ■学童・ガール/ボーイスカウト対象に「かんきょうマークはっけん手帳」展開開始(6月)
2019年	—	■キリンビール岡山工場に、化石燃料から電力へのエネルギーシフトを目的にヒートポンプ導入	■「キリングループ プラスチックポリシー」を発表 ■28.3gの国産最軽量2L PETボトルを開発・使用開始 ■「キリン 生茶デカフェ」で再生PET樹脂を100%使用した“R100ペットボトル”全面採用 ■キリンビール・キリンビバレッジで紙容器のFSC認証紙採用100%を達成	■学童保育などを対象とした「環境マークプログラム」の試行を開始
2018年	■「TCFD提言」への賛同を表明 ■環境報告書2019年版で、TCFD提言に基づいたシナリオ分析を進む開示を試行	—	—	■「FSCフォレスト・ウィーク2018」イベントに協賛
2017年	■「CSVコミットメント」を発表。GHG削減目標がSBTから承認 ■「Science Based Targets(SBT)イニシアチブ」承認取得(3月)	—	■2020年末までに全ての紙製容器包装でFSC認証紙切り替えを目指すことを宣言	—
2016年	■メルシャンの環境マネジメントシステムISO14001を自己適合宣言に移行。キリン配下3事業会社の環境マネジメントシステムを統合	—	■「トロピカーナ100%」シリーズ250mlにグループで初めてFSC認証紙を採用	■「EARTH HOUR 2016 in Yokohama」イベントに協賛

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2014年	■キリンビール、キリンビバレッジの環境マネジメントシステムISO14001を自己適合宣言に移行(7月)	—	■国産最軽量ビール中びんのテスト展開を開始(11月) ■国産最軽量2L PETボトルの開発完了	■中高生を対象としたワークショップ「キリン・スクール・チャレンジ」開始
2013年	■「キリングループ長期環境ビジョン」策定	■メルシャン八代工場へ蒸気再圧縮設備導入	■キリンビバレッジの一部2L商品で再生PET素材の使用率を10%から50%へ向上 ■キリンビバレッジで再生PET素材100%からつくる環境配慮型PETボトルを開発	—
2012年	■「キリングループ環境戦略」策定・取締役会決議(5月) ■「キリングループ持続可能な生物資源調達ガイドライン」行動計画」策定(12月)	—	■キリンビバレッジ「生茶」においてPETボトルをPETボトルに戻す「ボトルtoボトル」開始 ■キリンビール国産最軽量となる新形状の6缶パック板紙を開発	■キリン横浜ピアビレッジの庭園、ピオトープをリニューアル
2011年	■キリンビジネスエキスパート改組・キリングループオフィス設立に伴い、キリングループオフィスに品質・環境推進部を設置(1月) ■キリングループCO ₂ 排出SCOPE3の第三者格付け取得	■協和発酵キリン宇都工場へ太陽光発電導入	■キリンビバレッジ、PETボトル用樹脂ラベルの水性インク印刷技術を開発	■キリンビバレッジ、神奈川県と「森林再生パートナー制度」契約締結により、「キリンビバレッジかながわの森」誕生
2010年	■キリンビジネスエキスパートに品質・環境推進部を設置し、キリングループの品質・環境マネジメント統括機能を移管(3月) ■「キリングループ生物多様性保全宣言」を策定(10月) ■「キリングループ遺伝資源アクセス管理原則」策定 ■「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加	■協和発酵キリン東京リサーチパークへ太陽光発電システム導入(3月) ■キリンビバレッジ舞鶴工場へ天然ガスボイラ導入(5月) ■キリンビールが「エコレールマーク」認定企業に選定	■無糖茶で国産最軽量の2L PETボトル「NEWペコロジー®ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用 ■国産最軽量の2L PETボトル「NEWペコロジー®ボトル」を「アルカリイオンの水」に採用 ■メルシャン、国産最軽量(メルシャン調べ 2010年8月現在)となる720mlのワインびんを導入 ■メルシャン、内面に特殊加工を施すことにより酸素バリア性を向上させた「ワインのためのペットボトル」を、一部製品に採用	■キリンビール福岡・佐賀両支社、ブリヂストンと協働で筑後川と有明海の環境保全に売上の一部を寄付
2009年	■「キリングループ低炭素企業アクションプラン」を策定。バリューチェーンで1990年比2050年に半減の目標 ■キリンホールディングスCSR推進部をCSR・品質推進部に改組、キリンビールにCSR推進部設置(3月) ■協和発酵キリンISO14001統合認証取得(5月)	■農林水産省・国家プロジェクトのバイオエタノール十勝プラント竣工(5月) ■「エコファースト推進協議会」が発足し、キリンビール社長が議長に就任(12月)	■キリンビール、6缶パック板紙にショートガセットタイプを採用	■キリンビバレッジ、ボルネオ保全トラストジャパンと共同でボルネオ支援自販機設置開始
2008年	■キリンビールISO14001統合認証取得(6月) ■キリングループ環境方針改訂(10月) ■キリンビバレッジ本社ISO14001取得(12月) ■「低炭素企業グループ」をCSRの柱として設定	■環境負荷低減を目指し、北海道地区一部でキリンビールとサッポロビールとの共同配送を開始 ■キリンビール社「エコファーストの約束」宣言により環境省「エコファースト制度」の製造業第1号として認定	—	■ユニーグループ共同企画「麒麟淡麗(生)緑の募金デザイン缶」売り上げ一部を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付 ■キリンビール山陰支社「三朝・キリン恵みの森」、キリンビール北陸工場「能美里山の森」活動開始

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2000年	■全ビール工場で環境会計を導入 ■社内向教育ビデオ「持続可能な社会を目指して～キリンビールの環境対策」を制作 ■本社でISO14001の認証取得(12月) ■キリンビバレッジ湘南工場ISO14001認証取得	■一部の支社で再資源化率100%を達成 ■副産物の再資源化新規用途であるビール酵母細胞壁コーティング剤「イーストラップ」、潰瘍性大腸炎患者用食品「GBF」発売開始	■容器包装リサイクル法完全施行によりガラスびんに加えて紙・プラスチック容器包装の再商品化委託料を申請	■神戸工場「水源の森」活動開始 ■仙台工場ビオトープを造成
1999年	■キリングループの「環境方針」(環境理念・基本方針)を改定(8月) ■「グリーン調達基本方針」(7月)、「グリーン調達指針」(11月)を制定 ■全ビール工場(12工場)でISO14001の認証を取得 ■全ビール工場で環境会計システム導入に向けての基準作成 ■キリンビバレッジ舞鶴工場ISO14001認証取得	■全ビール工場で再資源化率100%を維持 ■本社で再資源化率100%を達成 ■燃料電池の導入(栃木工場3月設置)	■軽量リターナブル大びんを全国展開(4月) ■LCA手法活用した容器開発(クリアブリュー) ■容器間比較研究会に参画 ■リターナブル小びんのスリム化実施(従来品より10%軽量化)	■高校生向け環境教育ビデオ「彼と彼女とごみの関係～資源循環型社会を目指して～」を制作・配布(5月) ■神奈川県「かながわ水源の森林づくり」パートナー第1号として参画し、横浜工場「水源の森」活動開始 ■屋久島ゼロ・エミッション活動に賛同・支援・参画 ■ビールびんリサイクルパンフレットを作成・活用
1998年	■ビール工場のCO₂排出削減目標を設定(2010年に総量・原単位を1990年比マイナス25%)	■ビール業界で初めて、全ビール工場で再資源化率100%を達成	■「環境に適合した包装・容器設計ガイドライン」を見直し「環境に適合した容器包装等設計指針」として改定(6月) ■再資源化対応のガラスびんの着色技術を開発	■ビデオ「キリンビールの環境対策」制作・配布
1997年	■北陸工場が国内の食品業界で初めてISO14001の認証を取得(3月) ■「1996年度版キリンビール環境問題への取り組み」が、環境報告書のコンテストである第1回環境アクションプラン大賞の最優秀賞である環境庁長官賞を受賞(6月) ■1996年度の環境監査結果を基に、パンフレット「1997年度版キリンビール環境報告書」を制作・社内外に配布(9月)(以降毎年度版を制作)	■ビール粕を利用したキノコの菌床素材「ガンキノコ」を開発・販売 ■ビール粕の分画プラントを滋賀工場内に設置 ■グリーン購入を開始 ■CO₂の排出原単位のビール業界目標を設定	■軽量リターナブル大びんを首都圏に本格導入(3月) ■「容器包装リサイクル法」の本格施行に伴い、ガラスびんについて再商品化委託料を申請(大半のリターナブルびんは自主回収ルートの認定を取得) ■材質を紙に変更した6缶パックを導入	■高校生・中学生向け環境教育ビデオ「未来からの電子メール～環境に国境はない」を制作・配布(7月) ■神戸工場ビオトープを造成
1996年	■1995年度の環境監査結果を第3回「環境報告書」にまとめ(10月)、それを基にパンフレット「1996年度版キリンビール環境問題への取り組み」を制作・社内外に配布(12月)	■LCA手法によりビール製造関連のCO₂など温室効果ガスの排出負荷をまとめ・公表	—	■中学生向け環境教育ビデオ「中学生のゴミ体験」を制作・配布(3月) ■ビールびんリサイクル広告を実施(4回シリーズ)
1995年	■第4回地球環境大賞の最優秀賞である「地球環境大賞賞プラン」を受賞(4月) ■グループ会社を含めた環境監査の結果を第2回「環境報告書」にまとめる(10月)	■食品業界で初めて燃料電池のフィールドテストを開始	■PETボトルのリサイクルを容易にするためベースカップ付きボトル・耐熱圧自立型PETボトル(一体型)を採用	■ビールびんリサイクル広告を実施(5回シリーズ)
1994年	■「キリンビール環境管理ガイドライン」を「キリンビール環境ガイドライン」に改訂 ■1993年度環境監査結果を「環境報告書」にまとめる(8月)	■横浜工場他計4工場が年間を通して副産廃棄物再資源化率100%を達成	■ビール用アルミ缶に204径缶(209径缶より26%、206径缶より18%軽量)を採用	■キリンビール・キリンビバレッジ共同で、小学生向け環境教育ビデオ「あきらとかん太のごみ冒険」を制作・配布(4月) ■ビールびんリサイクル広告を実施(6回シリーズ)
1993年	■各事業所ごとに「環境マネジメントシステム」を構築し、内部環境監査を実施 ■経営指針の社会貢献に「地球環境への配慮」を明示(10月)	—	■軽量リターナブル大びん(従来品より21%軽い)を開発、北海道・函館で試験導入(5・6月)	■栃木工場・北陸工場で環境保全林(ふるさとの森)として植樹(8月)

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
2007年	■純粋持株会社制導入に伴い会社分割、キリンホールディングス(株)商号変更(7月)し、CSR推進部が環境室設置	■キリンビール、農林水産省・国家プロジェクト「バイオ燃料地域利用モデル実証事業(北海道十勝地区)」に参画 ■環境負荷低減、コスト削減を目指してキリンビール、キリンビバレッジとサントリー社で資材調達協力について合意(缶蓋規格共有、段ボール原紙共同調達)	—	■キリンファーマ高崎工場「水源の森」活動開始 ■「クールビス・オブ・ザ・イヤー」(クールビス推進協議会主催)の「クールビスエグゼクティブス部門」をキリンホールディングス加藤社長受賞
2006年	—	■太陽光発電導入(キリンビール福岡工場 20kW、広島ブルワリー 10kW、横浜工場 20kW、キリンビバレッジ湘南工場 60kW) ■オンサイト事業による天然ガスボイラシステムとNAS電池導入(キリンビール取手工場) ■キリンビール、「横浜市風力発電事業」への協賛 ■キリンビバレッジ「エコレール」認定企業に選定	—	■キリンビール福岡工場「水源の森」活動開始によりビール全工場の活動となる ■キリンディスティラリー御殿場蒸溜所「水源の森」活動開始
2005年	■キリン社の主要4研究所でEA21を取得 ■ISO14001グループ会社3事業所で取得 ■CSR・CC本部発足に伴い社会コミュニケーショングループ社会環境室に組織改変	■キリンビール神戸工場へ太陽光発電システム導入(20kW) ■環境省が展開している地球温暖化防止「国民運動」「チーム・マイナス6%」に賛同し、「クールビズ」「ウォームビズ」などのCO₂削減に向けた活動に取り組む	■国産最軽量のPETボトル「ペコロジー®ボトル」を「キリン生茶」リニューアル時に採用	■キリンビール千歳工場、北陸工場、名古屋工場「水源の森」活動開始 ■キリンビール、株主優待「エコジロ・募金」を国土緑化推進機構「緑の募金」寄付
2004年	■武田キリン社にてISO14001認証取得 ■キリンビール首都圏地区本部、横浜アリーナ、キリンダイニングにてEA21(Eco Action21)認証取得 ■主要物流会社計15社にてグリーン経営システム(交通エコロジー・モビリティ財団)認証取得	■バイオガスと都市ガス混焼ガスエンジン式コージェネレーション設備の導入(キリンビール横浜工場) ■キリンビール医薬部門の営業車を中心に一部ハイブリッド車導入開始 ■ビール工場で使用する燃料を重油から都市ガスへ転換(キリンビール千歳工場)	■キリンビール、ビール・発泡酒・チューハイ・清涼発泡飲料の250ml缶・350ml缶・500ml缶全商品にコーナーカットカートンを採用	■キリンビール滋賀工場、取手工場「水源の森」活動開始
2003年	■キリンビール、第12回地球環境大賞経済産業大臣賞受賞 ■キリンビール、2004年中期計画策定に環境保全を全社の重点課題の1つと設定 ■キリンビール新川本社ISO14001更新審査において企画管理部門に範囲拡大	■バイオガスを利用した新型燃料電池の実用化(キリンビール取手工場) ■キリンビール、営業車の軽自動車化開始 ■協和発酵キリン全社でゼロエミッション達成	■キリンビール、軽量リターナブル大びん100%切替完了(6月) ■グループダノンと共同開発した「ペコロジー®ボトル」を「キリンアルカリイオンの水」2L PETボトルリニューアル時に採用	■キリンビール栃木工場「水源の森」活動開始 ■日本サッカー協会と共に「フリースタジアム」活動開始
2002年	■キリンビール地区本部での環境マネジメントシステム導入	■バイオガス・コージェネレーション設備の導入(キリンビール神戸工場)	■製缶時に環境負荷の低いaTULC缶を「キリン極生」に採用 ■キリンビール、リターナブル中びんをこれまでのプリントびんからエンボス加工に順次切り替え	■キリンビール岡山工場「水源の森」活動開始 ■キリンビール取手工場、岡山工場、滋賀工場ビオトープを造成
2001年	■キリンビール本社・高崎医薬工場・各研究所で環境会計導入 ■「キリンビールにおける環境マネジメントの実践」(日科技連出版社)を出版 ■キリンビール高崎医薬工場でISO14001の認証取得(11月)	■副産物の再資源化用途開発であるビール酵母食物繊維「BYC」を発売	—	■キリンビール仙台工場「水源の森」活動開始 ■キリンビール栃木工場ビオトープを造成 ■キリンビバレッジ「かながわ水源の森」パートナー参画
1923年～2000年の取り組みはキリンビールのみです。				

年	組織・方針など 環境マネジメント	環境保全の取り組み	容器包装の取り組み	社会的取り組み
1992年	■「キリンビール環境管理ガイドライン」制定(12月)	—	■「環境に適した包装・容器設計ガイドライン」制定(12月)	—
1991年	■社会環境部を設置(7月) ■「キリンビール環境問題の取り組みの基本方針」制定(12月)	—	■缶ビールにアルミ・スチールの缶材表示を開始(12月)	■高校生向け環境教育ビデオ「裁かれるのは誰だ〜ゴミ法廷」を制作・配布(11月)
1990年	—	■USAB嫌気性排水処理設備を千歳工場に導入(12月)	■缶ビールのタブ散乱防止のため、リングプルタイプよりステイオンタブ切替え開始(4月)	—
1989年	—	■ビール工場の排水処理研究で日本醸造協会技術賞を受賞(9月)	—	—
1985年	—	—	■ビール用アルミ缶に206径缶を採用	—
1984年	—	—	■鹿棄プラスチック製通箱を原料としたプラスチックパレットを開発・導入	—
1982年	—	—	■ホットパック製品窒素充填による缶薄肉化	—
1975年	■本社製造部に環境整備担当(後に環境整備課に改組)を設置	—	■ビール用アルミ缶に209径缶を採用	■環境美化ラジオキャンペーン「ちょっと気になるこの日本」を開始(〜1980年)
1974年	■全工場・研究所に環境整備室を設置(93年に環境室に改組)	—	■ビールびんとプラスチック製通箱の容器保証金制度を開始	—
1973年	—	■分別収集・廃棄物減量活動を開始	■清涼飲料P箱全国・全品種で導入	■ビール工場で空き缶回収などの環境美化活動を開始
1972年	—	—	■清涼飲料容器保証金制度実施	—
1966年	—	■活性汚泥法による排水処理設備の本格的導入	■横浜・川崎市への出荷をビールP箱に全面切り替え	—
1965年	—	—	■プラスチック製ビール違い箱(P箱)を開発し、横浜・川崎市で市場テスト	—
1923年	—	■排水処理設備を導入(神崎工場後の尼崎工場)	—	—

外部表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(4年連続)	CDP
2021年	メルシャン	令和3年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰	—	環境省
2021年	キリンホールディングス	第3回日経SDGs経営大賞	最高位	日経新聞社
2021年	キリンホールディングス	CDP気候変動	Aリスト(3年連続)	CDP
2021年	キリンホールディングス	水セキュリティ	Aリスト(6年連続)	CDP
2021年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(3年連続)	CDP
2020年	キリンホールディングス	ESGファイナンス・アワード・ジャパン環境サステナブル企業部門	金賞(2年連続)	環境省

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2020年	キリンホールディングス	第2回日経SDGs経営大賞	「環境価値賞」・最高位	日経新聞社
2020年	キリンホールディングス	CDP気候変動	Aリスト(2年連続)	CDP
2020年	キリンホールディングス	CDP水セキュリティ	Aリスト(5年連続)	CDP
2020年	キリンホールディングス	ESGファイナンス・アワード・ジャパン環境サステナブル企業部門	金賞	環境省
2019年	キリンホールディングス	CDP水セキュリティ	Aリスト(4年連続)	CDP
2019年	キリンホールディングス	CDP気候変動	Aリスト	CDP
2019年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード(2年連続)	CDP
2018年	キリンホールディングス	CDPサプライヤー・エンゲージメント・レーティング	リーダー・ボード	CDP
2018年	キリンホールディングス	平成29年度「青少年の体験活動推進企業表彰」	審査委員会奨励賞(大企業部門)	文部科学省
2018年	キリンホールディングス	第8回「キャリア教育アワード」	奨励賞	経済産業省
2018年	キリンホールディングス	CDPウォーターセキュリティ	Aリスト(3年連続)	CDP
2018年	キリンホールディングス	CDP気候変動	A-	CDP
2017年	キリンホールディングス	第6回いきものにぎわい企業活動コンテスト	審査員特別賞	いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会
2017年	キリンホールディングス	CDP気候変動	Aリスト(4年連続)	CDP
2017年	キリンホールディングス	CDP水	Aリスト(2年連続)	CDP
2017年	キリンホールディングス	第26回地球環境大賞	フジサンケイグループ賞	フジサンケイグループ
2017年	キリンビール(共同配送)	第18回物流環境大賞	物流環境大賞	一般社団法人 日本物流団体連合会
2017年	キリンビール(共同配送)	平成29年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰	国土交通大臣表彰	国土交通省
2016年	キリンホールディングス	CDP気候変動	Aリスト(3年連続)	CDP
2016年	キリンホールディングス	CDP水	Aリスト	CDP
2016年	キリンホールディングス	企業の温暖化対策ランキング食品業種	1位	世界自然保護基金日本委員会(WWFジャパン)
2016年	キリンホールディングス	ベスト長期目標賞	—	低炭素杯2016
2015年	キリンホールディングス	CDP気候変動	CDLI、Aリスト	CDP
2014年	キリンホールディングス	CDP気候変動	CDLIおよびCPLI。ピバレッジ部門でAリスト	CDP
2014年	キリンホールディングス	生物多様性勝手にアワード	百獣の王賞(最高位)	世界自然保護基金日本委員会(WWFジャパン)
2012年	キリンホールディングス	CDP Japan500	CDLI	CDP
2011年	キリンホールディングス	CDP Japan500	1位獲得	CDP
2010年	キリンホールディングス	CDP Global500	日本2位	CDP
2007年	キリンホールディングス	クールビズエグゼクティブ賞	—	クールビズ推進協議会

環境報告書の表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2020]	第24回 環境コミュニケーション大賞	気候変動報告大賞 (環境大臣賞)	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2020年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2019]	第23回 環境コミュニケーション大賞	審査委員会特別優秀賞	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2018年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2018]	第22回 環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2017年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2017]	第21回 環境コミュニケーション大賞	地球温暖化対策報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 財団法人地球・人間環境フォーラム
2016年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2016]	第20回 環境コミュニケーション大賞	生物多様性報告特別優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2015年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2015]	第19回 環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞 (地球・人間環境フォーラム 理事長賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2014年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2014]	第18回 環境コミュニケーション大賞	環境報告大賞 (環境大臣賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2013年	環境報告書 [キリングループ環境報告書2013]	第17回 環境コミュニケーション大賞	地球温暖化対策報告 大賞(環境大臣賞)	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2011年	サステナビリティレポート [キリングループ サステナビリティ レポート 2011]	第15回 環境コミュニケーション大賞	環境報告優秀賞	環境省 (財)地球・人間環境フォーラム
2005年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2004年版]	第8回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2004年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2003年版]	第7回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2003年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2002年版]	第6回環境報告書賞	継続優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2003年	ホームページ [キリンビールの環境への取り組み]	第3回みんなで選ぶ エコWEB大賞	特別審査員賞	エコロジションフォニー
2003年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2002年版]	第6回環境レポート大賞	優秀賞 (環境報告マイスター賞)	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2002年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2001年版]	第5回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2001年	環境報告書 [キリンビール環境報告書2001年版]	第5回環境レポート大賞	優秀賞	(財)地球・人間環境フォーラム
2001年	環境報告書 [2000年版キリンビール環境報告書]	第4回環境報告書賞	優秀賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
2000年	環境報告書 [2000年版キリンビール環境報告書]	第4回環境レポート大賞	優秀賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
2000年	環境報告書 [1999年版キリンビール環境報告書]	第3回環境報告書賞	優良賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
1999年	環境報告書 [1999年版キリンビール環境報告書]	第3回環境レポート大賞	大賞	(財)地球・人間環境フォーラム (社)全国環境保全推進連合
1999年	環境報告書 [1998年版キリンビール環境報告書]	第2回環境報告書賞	優良賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム
1998年	環境報告書 [1997年版キリンビール環境報告書]	第1回環境報告書賞	優秀賞 特別賞	(株)東洋経済新報社 グリーンリポーティング・フォーラム

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
1997年	環境報告書 [1996年度版キリンビール環境問題への 取り組み]	環境アクションプラン大賞	環境庁長官賞	(社)全国環境保全推進連合会

容器包装での表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2022年	ワイン用軽量PETボトル開発	第46回木下賞	包装技術賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2022年	ハートランドビール 330ml・500mlびん	第18回ガラスびんアワード 2022	特別賞	日本ガラスびん協会
2021年	PETボトル新規薄膜形成技術	ワールドスターコンテスト2021	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2020年	PETボトルの新規薄膜形成技術	第44回木下賞	研究開発部門	公益社団法人日本包装技術協会
2020年	R100ペットボトル	ワールドスターコンテスト2020	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2019年	R100ペットボトル	2019日本パッケージングコンテ スト	ジャパンスター (日本包装技術 協会会長賞)	公益社団法人 日本包装技術協会
2018年	国産最軽量ビール中びん (リターナブル)	ワールドスター2018コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2018年	国産最軽量ビール中びん (リターナブル)	第14回ガラスびんアワード	機能・環境賞	日本ガラスびん協会
2017年	国産最軽量アルミ缶	第41回木下賞	改善合理化部門	公益社団法人 日本包装技術協会
2017年	国産最軽量 2L PETボトル	ワールドスター2016コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2017年	国産最軽量 2L PETボトル	アジアスター2015コンテスト	アジアスター賞	アジア包装連盟
2016年	NEWペコロジーボトル	第40回木下賞	改善合理化部門	公益社団法人 日本包装技術協会
2015年	国産最軽量 2L PETボトル	ワールドスター2015コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2013年	GRAND KIRIN THE AROMA	2013日本パッケージングコンテ スト (第35回)	社団法人 日本グラフィックデザ イナー協会賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2013年	GRAND KIRIN THE AROMA	ワールドスター2013コンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構 (WPO)
2013年	GRAND KIRIN THE AROMA	アジアスター2013コンテスト	アジアスター賞	アジア包装連盟
2012年	GRAND KIRIN	ガラスびんアワード2012	機能優秀賞	日本ガラスびん協会
2010年	NEWペコロジーボトル	サスティナビリティ賞	金賞	世界包装機構 (WPO)
2010年	NEWペコロジーボトル	ワールドスター2010コンテスト	ワールドスター賞 (飲料部門)	世界包装機構 (WPO)
2010年	NEWペコロジーボトル	アジアスター2010コンテスト	アジアスター賞 (Ecoパッケ ジ部門)	アジア包装連盟
2010年	NEWペコロジーボトル	2010日本パッケージングコンテ スト	適正包装賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2008年	焼酎用紙容器 麒麟本格焼酎 タルチョ	第47回ジャパンパッケージング コンペティション	経済産業大臣賞 (最高位)	社団法人 日本印刷産業連合会
2007年	ビール用軽量リターナブル大びん	平成18年度 容器包装3R推進	環境大臣賞	環境省
2007年	焼酎用紙容器 麒麟本格焼酎 タルチョ	日本パッケージングコンテスト	グッドパッケージング賞 (飲料 包装部) 入選	社団法人 日本包装技術協会

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2007年	麒麟麦焼酎ピュアブルー	第46回ジャパンパッケージングコンペティション	経済産業大臣賞（最高位）	社団法人 日本印刷産業連合会
2005年	キリン・キリンピバレッジ軽量2L PETボトルの開発	第29回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
2003年	「キリン極生」による低環境負荷のアルミ缶（aTULC）の実用化	第27回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
2002年	「キリンチューハイ氷結果汁」（アルミダイヤカット缶）の商品化	第26回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
2002年	「キリン極生」	ワールドスターコンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構（WPO）
2001年	KB（キリンケービー）	ワールドスターコンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構（WPO）
2000年	クリアブルー	ワールドスターコンテスト	ワールドスター賞	世界包装機構（WPO）
1994年	軽量リターナブルびんの開発	第18回木下賞	研究開発部門	社団法人 日本包装技術協会
1987年	ビールラベルの品質改善に伴う紙蒸着ラベルの利用	第11回木下賞	改善・合理化部門	社団法人 日本包装技術協会

環境広告表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	ecomom 2020年冬号	日経BP Marketing Awards 2021	銀賞	日経BP
2012年	キリンビール出展ブース	エコ&デザインブース大賞	最優秀賞	エコプロダクツ2012
2006年	エコジロー環境広告（エコどこ、エコここ）	第36回フジサンケイグループ広告大賞	雑誌優秀賞	フジサンケイグループ
2005年	エコジロー環境広告	オレンジページ広告大賞	審査員特別賞	株式会社 オレンジページ
2004年	ホームページ（環境への取り組み）	環境goo大賞	優秀賞ー環境教育	環境goo
2003年	ホームページ（環境への取り組み）	環境goo大賞	優秀賞ー総合	環境goo
2003年	エコジロー環境広告	環境広告コンクール	雑誌部門 環境大臣賞	NPO法人地域交流センター／日本経済新聞社
2003年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌L部門 金賞	社団法人 日本広告主協会
2003年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌L部門 金賞	社団法人 日本広告主協会
2003年	エコジローの環境テーブル	東京インタラクティブアワード	ビヨンド広告部門 入賞	インターネット広告推進協議会
2002年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 金賞 新聞広告部門 銅賞	社団法人 日本広告主協会
2001年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 銀賞	社団法人 日本広告主協会
2000年	エコジロー環境広告	環境広告コンクール	大賞	NPO法人地域交流センター／日本経済新聞社
2000年	エコジロー環境広告	消費者のためになった広告コンクール	雑誌広告部門 金賞	社団法人 日本広告主協会
2000年	エコジロー環境広告	日経広告賞	優秀賞	日本経済新聞社
2000年	エコジロー環境広告	日本雑誌広告賞	銀賞	社団法人 日本雑誌広告協会

事業所表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	メルシャン/八代工場	第29回くまもと環境賞	くまもと循環型社会賞	熊本県
2018年	協和キリン高崎工場	群馬県環境賞	環境功績賞	群馬県
2017年	キリン パッケージング技術研究所	平成29年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
2016年	キリンビール	容器包装簡素化大賞2016	特別賞	北海道容器包装の簡素化を進める連絡会
2016年	メルシャン藤沢工場	海岸美化活動表彰	地域における永年の海外美化活動への貢献	公益財団法人 かながわ海岸美化財団
2014年	ライオン	ニュージーランド持続可能なビジネスネットワーク賞	エネルギー管理賞	サステイナブルビジネスネットワーク
2014年	ベトナムキリンピバレッジ	ビンズン省環境表彰	ー	ビンズン省
2013年	信州ピバレッジ	環境保全対策優良事業所表彰	ー	長野県
2013年	信州ピバレッジ	信州豊かな環境づくり県民会議表彰	ー	長野県
2013年	ベトナムキリンピバレッジ	ビンズン省環境表彰	3位	ビンズン省
2012年	キリンビール 横浜工場	かながわ地球環境賞	かながわ地球環境保全推進会表彰	かながわ地球環境保全推進会、神奈川県
2010年	キリンビール 滋賀工場	優良事業所環境パートナーシップ部門	公益社団法人 滋賀県環境保全協会会長表彰	公益社団法人 滋賀県環境保全協会
2009年	小岩井乳業 小岩井工場	食品産業CO ₂ 削減大賞	優良賞	(株)日本総合研究所
2009年	キリンビール	ゼロエミッション啓発	感謝状	国連大学 ゼロエミッションフォーラム
2009年	キリンビール 神戸工場	エネルギー環境教育情報センター 広報施設表彰	運営委員長奨励賞	財団法人社会経済生産性本部 エネルギー環境教育財団センター
2009年	キリンビール 岡山工場	平成20年度岡山市事業系ごみ減量化・資源化推進優良事業者表彰	最優秀賞	岡山市
2008年	キリンビール 横浜工場	平成20年横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市資源循環局事業系対策課
2008年	キリンビール 神戸工場	第28回緑の都市賞	都市緑化基金会長賞	財団法人都市緑化基金
2008年	キリンビール 仙台工場	海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰	国土交通大臣賞	国土交通省
2008年	キリンビール 取手工場	平成20年「地球にやさしい企業表彰」	環境マネジメント	茨城県
2008年	キリンビール 北陸工場	いしかわ森林環境功労者表彰	石川県知事賞	石川県
2008年	キリンビール 神戸工場	平成19年度兵庫県環境にやさしい事業者賞	優秀賞	兵庫県環境政策課
2007年	キリンビール 横浜工場	平成19年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2007年	キリンビール 神戸工場	地球温暖化防止活動 知恵の環づくり特別賞	ー	兵庫県
2007年	キリンビール 仙台工場	自然エネルギー等 導入促進部門大賞	宮城県知事表彰	宮城県

緑化表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2020年	協和発酵/バイオ山口事業所	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2019年	キリンビール横浜工場	第9回横浜・人・まち・デザイン賞	まちなみ景観部門	横浜市
2019年	キリンビール横浜工場	全国みどりの工場大賞	関東経済産業局長賞	日本緑化センター
2019年	キリンビール横浜工場	第18回 屋上・壁面緑化技術コンクール	国土交通大臣賞	都市緑化機構
2018年	キリンビール横浜工場	第37回 工場緑化推進全国大会	日本緑化センター会長賞	日本緑化センター
2018年	キリンビール神戸工場	第12回「みどりの式典」	平成30年度緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞	内閣府
2018年	協和発酵/バイオ山口事業所防府	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2016年	キリンビール横浜工場	みどりの社会貢献賞	第4回みどりの社会貢献賞	公益財団法人都市緑化機構
2016年	キリンビール横浜工場	第36回緑の都市賞	国土交通大臣賞	公益財団法人都市緑化機構

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2007年	キリンビール 福岡工場	エコ実践者活動	保険福祉環境事務所長表彰	福岡県
2006年	キリンビール 神戸工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞	－	環境省地球環境局
2006年	キリンビール 福岡工場	高圧ガス保安	経済産業大臣	高圧ガス保安協会
2006年	キリンビール 横浜工場	環境保全奨励賞	コージェネレーションシステム	日本コージェネレーションシステム
2005年	キリンビール 横浜工場	子ども省エネ大作戦2005	横浜市主催「子ども省エネ大作戦 2005」への協力	特定非営利活動法人 国連WFP協会
2005年	キリンビール 横浜工場	環境管理事業所認定	横浜市より環境管理事業所として認 定	横浜市環境創造局長
2003年	キリンビール 岡山工場	環境おかやま大賞	環境おかやま大賞	岡山県
2003年	キリンビール 神戸工場	神戸市環境功労賞	神戸市環境功労賞	神戸市
2003年	キリンビール	第12回地球環境大賞	経済産業大臣賞	(財)世界自然保護基金日本委員会 (WWFジャパン)
2001年	キリンビール 北陸工場	平成13年度いしかわグリーン企業	知事表彰	石川県
2001年	キリンビール 横浜工場	かながわ地球環境賞	神奈川県知事表彰	神奈川県、 かながわ地球環境保全推進会議
1997年	キリンビール	第6回日食・環境資源協力賞	環境資源協力賞	日本食糧新聞社
1995年	キリンビール	第4回地球環境大賞	大賞	(財)世界自然保護基金日本委員会 (WWFジャパン)

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2016年	協和発酵/バイオ山口事業所防府	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2014年	協和発酵/キリン富士工場	長泉町環境美化功労者表彰	団体の部	長泉町
2014年	協和発酵/バイオ山口事業所防府	防府市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	防府市
2014年	協和発酵/バイオ山口事業所宇部	宇部市緑のカーテンコンテスト	優秀賞	宇部市
2013年	キリンビール 仙台工場	緑綬褒章	地域における永年の 緑化・美化活動	－
2011年	キリンディスティラリー 富士御殿場蒸溜所	平成23年度緑化推進運動功労者	内閣総理大臣表彰	緑化推進連絡会議
2009年	協和発酵/キリン高崎工場	緑化優良工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
2009年	キリンビール神戸工場	緑化優良工場	緑化優良工場等 経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2009年	キリンビール北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部優秀賞	石川県白山市
2008年	キリンビール北陸工場	いしかわ森林環境功労者表彰	企業部門 県知事賞	石川県
2007年	キリンビール福岡工場	緑化優良工場	緑化優良工場等 経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2007年	キリンビール北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部優秀賞	石川県白山市
2007年	キリンビール北陸工場	緑化優良工場	緑化優良工場等 経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2006年	キリンビール北陸工場	白山市緑と花のまちなみ賞	事業所の部優秀賞	石川県白山市
2006年	キリンビール滋賀工場	平成18年度緑化優良工場表彰	会長賞	(財)日本緑化センター
2005年	キリンビール北陸工場	緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	石川県白山市
2004年	キリンビール神戸工場	平成16年度緑化優良工場 近畿経済産業局長表彰	緑化優良工場	(財)日本緑化センター
2004年	キリンビール北陸工場	緑と花のまちなみ賞	事業所の部奨励賞	松任市
2004年	キリンビール北陸工場	緑化優良表彰	中部経済産業局長賞	中部経済産業局
2003年	キリンビール北陸工場	平成15年度緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2003年	キリンビール北陸工場	平成15年度緑と花のまちなみ賞	事業所の部 優秀賞	松任市
2001年	キリンビール北陸工場	平成13年度 松任市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
2001年	キリンビール北陸工場	緑化優良表彰工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
2001年	キリン・シーグラム御殿場工場 (現キリンディスティラリー 富士 御殿場蒸溜所)	緑化優良工場	緑化優良工場等経済産業大臣賞	(財)日本緑化センター
2000年	キリンビール神戸工場	緑化優良表彰工場	日本緑化センター会長賞	(財)日本緑化センター
1999年	キリンビール福岡工場	水源の森基金	感謝状	(財)福岡県水源の森基金
1999年	キリンビール北陸工場	平成11年度 松任市緑と花のまちなみ賞	事業所の部 奨励賞	松任市
1998年	キリンビール北陸工場	緑化優良表彰工場	会長奨励賞	(財)日本緑化センター
1998年	キリンビール栃木工場	緑化優良表彰工場	通商産業局長賞	(財)日本緑化センター

リサイクル表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2021年	キリンビール横浜工場	令和2年度横浜環境行動賞 「ヨコハマ3R夢」	3R活動優良事業所	横浜市
2019年	キリンビール横浜工場	平成31年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2018年	キリンビール横浜工場	平成30年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2017年	キリンビール横浜工場	平成29年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2016年	キリンビール横浜工場	平成28年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2015年	キリンビール横浜工場	平成27年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2014年	キリンビール横浜工場	平成26年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2013年	キリンビール横浜工場	平成25年度横浜環境行動賞	3R活動優良事業所	横浜市
2011年	キリンビール名古屋工場	平成23年度3R推進功労者等表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2011年	メルシャン	平成23年度3R推進功労者等表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2010年	キリンビール横浜工場	平成22年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2009年	キリンビール岡山工場	平成21年度3R推進功労者等表彰	3R推進協議会会長賞	3R推進協議会
2009年	キリンビール横浜工場	平成21年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2008年	キリンビール横浜工場	平成20年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2008年	キリンビール神戸工場	平成21年度3R推進功労者等表彰	財務大臣賞	3R推進協議会
2007年	キリンビール横浜工場	平成19年度横浜環境行動賞	分別優良事業所	横浜市
2006年	キリンビール取手工場	茨城県リサイクル優良事業所	茨城県知事	茨城県 廃棄物再資源化指導センター
2005年	キリンビール岡山工場	エコ事業所認定工場 (ゼロエミッション部門)	－	岡山県
2002年	キリンビール滋賀工場	リサイクル推進協議会会長賞	会長賞	3R推進協議会
2001年	キリンビール神戸工場	リサイクル推進協議会会長賞	会長賞	3R推進協議会
2001年	キリンビール横浜工場	神奈川県廃棄物自主管理調整会議	優秀賞	神奈川県、横浜市、川崎市、 横須賀市
1998年	キリンビール	第27回食品産業功労賞	資材・機械・設備部門	食品産業新聞社

省エネルギー表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2017年	キリンビール仙台工場	平成28年度エネルギー管理優良事業者東北経済産業局長表彰	熱交換器およびヒートポンプ導入により、排水原水の昇温に必要な蒸気使用量を削減、高効率照明への更新により電力使用量を削減	東北経済産業局
2016年	信州ビバレッジ	平成27年度エネルギー管理優良事業所等中部地方電気使用合理化委員長表彰	電力および熱利用設備の運用見直しによるエネルギー削減	中部地方電気使用合理化委員会
2013年	キリン	平成25年度省エネ大賞	資源エネルギー庁長官賞	省エネルギーセンター
2010年	小岩井乳業 那須工場	平成21年度エネルギー管理功績者	関東経済産業局賞	関東経済産業局
2010年	キリンビール名古屋工場	エネルギー管理優良事業者	中部経済産業局長表彰	中部地方電気使用合理化委員会
2009年	キリンビール滋賀工場	平成21年優良ボイラー技士ボイラー協会会長表彰	優れたボイラー技師として、永年に亘る業務に対する功績の評価	日本ボイラー協会
2009年	小岩井乳業那須工場	平成20年度関東地区電気使用合理化委員会委員長賞	功績者賞	関東地区電気使用合理化委員会
2008年	キリンビール岡山工場	平成20年省エネルギー優秀事例全国大会	中国経済産業局長賞	財団法人 省エネルギーセンター
2006年	キリンビール仙台工場	平成18年優良ボイラー技士ボイラー協会会長表彰	優れたボイラー技師として、永年に亘る業務に対する功績の評価	日本ボイラー協会
2006年	キリンビール北陸工場	エネルギー管理（電気部門）表彰	－	中部経済産業局
2006年	キリンビール神戸工場	ひょうごバイオマスecoモデル登録証授与賞	ビール工場の有機物性排水処理における発生バイオガスによるコージェネレーション	兵庫県農林水産部農政企画局
2005年	キリンビール北陸工場	省エネルギー優秀事例	会長賞	省エネルギーセンター
2004年	キリンビール神戸工場	省エネルギー実施優秀事例資源エネルギー庁長官賞	消化ガスコージェネレーションシステムと生物脱硫システムによる省エネ対策	省エネルギーセンター
2004年	キリンビール北陸工場	ウェステック大賞2004	事業活動部門賞	ウェステック実行委員会
2004年	キリンビール北陸工場	省エネルギー優秀事例	排水処理ブロウとブライン冷凍機の電力量削減の取り組み	省エネルギーセンター
2003年	キリンビール千歳工場	エネルギー電気管理優良工場	資源エネルギー庁長官賞	経済産業省
2003年	キリンビール神戸工場	省エネルギーセンター優良賞	全員参加による省エネ推進	省エネルギーセンター
2002年	キリンビール神戸工場	第3回あおぞら大賞	兵庫県大気環境保全連絡協議会会長賞	兵庫県大気環境保全連絡協議会
2002年	キリンビール神戸工場	平成13年度エネルギー管理優良工場	近畿経済産業局長表彰	近畿経済産業局
2001年	キリンビール神戸工場	エネルギー実施優秀事例グループ	局長賞	－
2001年	キリンビール神戸工場	エネルギー管理優良工場（熱部門）	局長賞	省エネルギーセンター 近畿経済産業局
2000年	キリンビール岡山工場	エネルギー管理優良工場（熱部門）	局長表彰	中国通産局

その他の情報開示

商品を通じた環境情報開示

対象名	開示内容
エコレール	2006年にはキリンビバレッジが、2010年にはキリンビールが、それぞれ鉄道貨物輸送を活用し地球環境問題に積極的に取り組む企業として、国土交通省が推進する「エコレールマーク」認定企業に選ばれました。（2022年時点ではキリンビールだけが継続）
カーボンフットプリント	キリンビールは、2008年からビール業界と共にカーボンフットプリントについて取り組みを開始しました。ビール類の算定ルールとなるPCR(Product Category Rule)は2011年2月に認定され、2013年12月に改訂されました。
レインフォレスト・アライアンス 認証マーク	2021年8月に、自然と作り手を守りながら、より持続可能な農法に取り組むと認められた農園に与えられるレインフォレスト・アライアンス認証マークを表示した「キリン 午後の紅茶 ストレートティー」500ml紙パックの通年販売を開始しています。
FSC 認証ラベル	キリンビール、キリンビバレッジ(トロピカーナ含む)の紙容器の多くに、お客様に森林を守るごとの大切さを理解いただくために、FSC認証ラベルを付けています。メルシャンの紙容器やサンライズ・ブランドのワインの一部にも付けています。
オーガニックワイン	メルシャンでは、ユーロリーフ、エコサート、ビオディパン、ビオアグリサート、ソヒスサートなどの「オーガニック認証」を受けているワインを販売しています。

投資家への情報開示

対象名	開示内容
各種アンケート	各種アンケートなどを通じて環境に関する情報を開示しています。2021年は以下のような外部評価を受けています。（詳しくは→ P.24 ） ● CDP気候変動 Aリスト ● CDP水セキュリティ Aリスト ● CDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダー ● ESGファイナンス・アワード・ジャパン 金賞 ● 第2回日経SDGs経営大賞「環境価値賞」および最高位 ● FTSE4Good Index ● MSCIジャパンESGセレクト・リーダー指数 ● S&P/JPX Carbon Efficient Index ● SNAMサスティナビリティ・インデックス
各種レポート	以下のような投資家向け各種レポートでも環境に関する情報を開示しています。（詳しくは→ P.3 ） ● KIRIN CSV REPORT(統合報告書) ● キリングループ環境報告書 ● 協和キリン・アニュアルレポート
各種ウェブサイト	以下のようなウェブサイトでも環境に関する情報を開示しています。（詳しくは→ P.3 ） ● キリンホールディングス 社会との価値共創サイト(環境) ● キリンホールディングス IR情報
気候関連財務情報	気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)最終報告書に基づく情報を、2018年から毎年、環境報告書および環境サイトで開示しています。

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2000年	キリンビール岡山工場	エネルギー管理功労者(電気部門)	局長表彰	中国通産局
2000年	キリンビール千歳工場	エネルギー管理優良工場(電気部門)	通商産業局長賞	通商産業省
2000年	キリンビール北陸工場	エネルギー管理優良工場(電気部門)	通商産業大臣賞	通商産業省
1998年	キリンビール京都工場	エネルギー管理優良工場(電気部門)	通商産業局長賞	通商産業省

地球温暖化防止表彰

年	表彰対象	表彰名	表彰内容	実施団体
2017年	キリンビール滋賀工場	平成29年度 滋賀県低炭素社会づくり賞	－	滋賀県
2013年	キリンビール横浜工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞	環境教育活動部門	環境省
2011年	キリンビバレッジ 湘南工場	平成23年度神奈川県環境保全(大気・水・土壌関係)功労者表彰	－	神奈川県
2010年	キリンビール横浜工場	第一回 かながわ地球温暖化防止対策大賞	温室効果ガス削減実績部門	神奈川県
2009年	協和発酵バイオ 山口事業所(宇部)	山口県環境生活功労者知事表彰(地球温暖化対策優良事業所)	知事表彰	山口県
2009年	キリンビール神戸工場	エネルギー環境教育情報センター表彰	運営委員長奨励賞	(財)社会経済生産性本部・エネルギー環境教育情報センター
2009年	キリンビール福岡工場	平成20年度 地球温暖化防止環境大臣表彰	－	環境省
2008年	キリンビール神戸工場	地球温暖化防止活動 知恵の環づくり表彰	敢闘賞	兵庫県地球温暖化防止活動推進センター・ひょうご環境創造協会
2006年	キリンビール神戸工場	地球温暖化防止活動環境大臣賞	温室効果ガスの排出低減に対して	環境省地球環境局
1998年	キリンビール生産部門	環境保全功労者等表彰	地球温暖化防止部門	環境庁

講演等

日時	対象名
2020年7月28日	JCM
2020年10月9日	TCFDサミット2020
2020年10月10日	サステナブル・ライフスタイル宣言2020シンポジウム
2020年10月23日	一般社団法人企業研究会
2020年12月23日	100人カイギ
2021年1月28日	Solidaridad Japan「小規模農家による持続可能な紅茶生産を考える」
2021年2月3日	Re-Usersサミット2021
2021年2月10日	MS&AD企業が語るいきものがたりPart14
2021年3月1日	NSC(地球・人間環境フォーラム)
2021年3月5日	QUICK ESGワークショップ水資源～グローバルな水リスクと機会～
2021年3月12日	TCFDシンポジウム 脱炭素経営を通じた企業価値向上に向けて～シナリオ分析と開示の最前線～
2021年4月19日	英国大使館 Race to Zeroのビジネスラウンドテーブル
2021年8月2日	国土交通省「水を考えるつどいパネルディスカッション」
2021年9月13日	日経SDGsフォーラム キリングループのCSV経営と環境の取り組み
2021年10月22日	第4回 民間事業者による気候変動適応推進シンポジウム ー TCFDにおける物理的リスクへの取組に向けて
2021年11月8日	「農」×「企業」連携セミナー ～SDGsの実現と企業のCSV活動の促進に向けて～
2021年11月16日	エコ・ファースト・シンポジウム ー 第6回 気候危機と脱炭素社会
2021年11月25日	環境コミュニケーションと情報開示 -日経ビジネスLIVE-
2022年1月27日	ESGに係る食品関連企業勉強会 第3回 脱プラスチック及び容器包装リサイクル
2022年3月24日	WWF・株式会社オルタナ Earth Hour
2022年5月25日	Responsible Investor「世界で急速に進化するサステナブルファイナンスと日本の今」
2022年5月27日	経団連自然保護協議会会員 自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)ウェビナー
2022年6月1日	WWF プラスチックサーキュラーチャレンジ2025 みらいダイアログ

外部出版物など

対象名	開示内容
環境省 「TCFDを活用した経営戦略立案のススメ ～気候関連リスク・機会を織り込むシナリオ 分析実践ガイド～ver3.0」	シナリオ分析開示事例 ④ http://www.env.go.jp/policy/policy/tcfd/TCFDguide_ver3_0_1_2.pdf
農林水産省 「令和元年度 食料・農業・農村白書」	「生物多様性に配慮したワイン用ぶどうの栽培」 ④ https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r1/zenbun.html
JPX「ESG情報開示実践ハンドブック」	マテリアリティ特定 ④ https://www.jpx.co.jp/corporate/sustainability/esg-investment/handbook/index.html
JPX ESG knowledge Hub	上場会社のESG情報開示事例(シナリオ分析) ④ https://www.jpx.co.jp/corporate/sustainability/esgknowledgehub/company-disclosure/01.html
環境省「環境報告ガイドライン2018年版」	キリン事例 ④ http://www.env.go.jp/policy/2018.html
消費者庁 「エシカル消費ってなあに？」リーフレット	FSC商品 ④ https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/material/
農林水産省 「農林水産分野における生物多様性」	日本ワインのぶどう畑の植生再生活動 ④ https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/pr/attach/pdf/pr-30.pdf
一般社団法人生命保険協会 「はじめての気候変動対応ハンドブック」	TCFD開示事例 ④ https://www.seiho.or.jp/info/news/2019/pdf/20191115_1.pdf
経団連「生物多様性・自然資本に関する 企業情報開示のグッドプラクティス集」	スリランカ紅茶農園レインフォレスト・アライアンス認証取得支援 ④ http://www.env.go.jp/press/108055.html
農林水産省「環境のための農山漁村× SDGs ビジネスモデル ヒント集Ver2」	シャトー・メルシャンブドウ畑での生態系調査・植生再生活動 ④ https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/kankyo/200401.html
環境省 「生物多様性民間参画 事例集」	リスク・機会の特定 ④ http://www.biodic.go.jp/biodiversity/private_participation/guideline/jireisyu.pdf
環境省 「ひろがる カーボンニュートラル ～トップが語る脱炭素～」	トップメッセージ ④ http://www.env.go.jp/earth/carbon-neutral-messages/ ④ https://www.youtube.com/watch?v=1XH3rAa4OtU
国立環境研究所 TCFDに関する取り組み事項	TCFD提言に基づくシナリオ分析と戦略への反映 ④ https://adaptation-platform.nies.go.jp/private_sector/tcfd/report/report_004.html

GRI内容索引

本報告書はGRIスタンダードの以下の開示事項を参照しています。

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
一般開示事項		
GRI 2: 一般開示事項 2021	2-1 組織の詳細	ページ3, 5, 38 会社概要 (https://www.kirinholdings.com/jp/profile/overview/) グループ会社一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/profile/organization/)
	2-2 サステナビリティ報告の 対象になっている事業体	ページ3, 121-122 グループ会社一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/profile/organization/)
	2-3 報告期間、頻度、窓口	ページ3, 裏表紙 報告頻度は年次
	2-4 情報の再記述	ページ3, 15, 59, 70-71, 130
	2-5 外部保証	ページ153
	2-6 活動、バリューチェーン、 その他のビジネス上の関係	ページ5, 12, 26, 36, 38, 44, 58 事業領域 (https://www.kirinholdings.com/jp/domains/)
	2-7 従業員	ページ5 ESGデータ集 プロフィール、従業員 (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	2-8 従業員以外の労働	有価証券報告書 (https://pdf.irpocket.com/C2503/DZdo/Zsll/cQYx.pdf#page=14)
	2-9 ガバナンス構造と構成	ページ77, 105-106 経営体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_management/) 役員について (https://www.kirinholdings.com/jp/purpose/governance/provisions/) ESGデータ集 ガバナンス (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	2-10 最高ガバナンス機関の 指名と選出	経営体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_management/)
	2-11 最高ガバナンス機関の議長	役員について (https://www.kirinholdings.com/jp/purpose/governance/provisions/) ESGデータ集 ガバナンス (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
	2-12 インパクトのマネジメントにおける 最高ガバナンス機関の役割	ページ77, 98, 105-106 CSVマネジメント (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/) 環境経営体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_management/)
	2-13 インパクトのマネジメントに 関する責任の移譲	ページ77, 98, 105-106 グループCSV委員会 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/promotion_impact/)
	2-14 サステナビリティ報告における 最高ガバナンス機関の役割	「キリングループ環境ビジョン2050」はキリンホールディングス取締役 会で承認されています。 キリングループ環境報告書の全体的な内容はキリンホールディングス 株式会社常務執行役員 (CSV戦略担当、グループ環境総括責任者) が監 督しています。 グループCSV委員会 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/promotion_impact/)
	2-15 利益相反	コーポレートガバナンス・ポリシー (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/files/pdf/governance_policy.pdf)
	2-16 重大な懸念事項の伝達	ページ77, 98, 105-106 グループCSV委員会 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/promotion_impact/)
	2-17 最高ガバナンス機関の集会的知見	ページ77 グループCSV委員会 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/promotion_impact/)
	2-18 最高ガバナンス機関の パフォーマンスの評価	経営体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_management/)
	2-19 報酬方針	ページ77, 100 役員報酬 (https://www.kirinholdings.com/jp/purpose/governance/compensation/)
	2-20 報酬の決定プロセス	役員報酬 (https://www.kirinholdings.com/jp/purpose/governance/compensation/)
	2-22 持続可能な開発戦略に関する声明	ページ4, 6 トップメッセージ (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/message/)

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
GRI 2: 一般開示事項 2021		ページ5, 7, 21, 108, 116-120 企業方針 (https://www.kirinholdings.com/jp/profile/philosophy/) 各種方針 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/various_policies/) 2022年—2024年CSVコミットメント一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/commitment/) 国連GCとキリンググループ (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/gc/)
	2-23 方針・コミットメント	
	2-24 方針・コミットメントの組み込み	ページ12-13, 73, 98, 105-106, 109 CSVマネジメント (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/) 環境経営体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_management/)
	2-25 マイナスのインパクトを 是正するプロセス	ページ9, 97-98, 106, 109 キリンググループ環境ビジョン2050 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/mission/) 環境経営体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/e_management/) 持続可能なサプライチェーン (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/procurement/) コンプライアンス (https://www.kirinholdings.com/jp/purpose/governance/compliance/)
	2-26 助言の要請および 懸念の提起のための制度	ページ109 コンプライアンス (https://www.kirinholdings.com/jp/purpose/governance/compliance/)
	2-27 法規制の遵守	ページ107 ESGデータ集 環境、社会 (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	2-28 団体の会員資格	ページ113-114
	2-29 ステークホルダー・ エンゲージメントへの アプローチ方法	ページ110-114 ステークホルダーエンゲージメント (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/stakeholders/) 2022年—2024年CSVコミットメント一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/commitment/) 酒類メーカーとしての責任を果たすための方針・体制 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/alccohol/policies/) キリンググループ人権方針 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/community/2_1/policies/)

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
	2-30 団体交渉協定	ESGデータ集 社会(従業員) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
マテリアルな項目		
GRI 3: マテリアルな項目 2021	3-1 マテリアルな項目の決定プロセス	ページ105 持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス) (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/materiality/)
	3-2 マテリアルな項目のリスト	ページ9-10, 20-22, 105 私たちのCSVコミットメント (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/commitment/) 持続的成長のための経営諸課題(グループ・マテリアリティ・マトリックス) (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/materiality/)
生物資源		
GRI 3: マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	ページ9-13, 17-18, 20-22, 25, 26-35, 80, 89-90, 97, 116, 118-120
GRI 304: 生物多様性 2016	304-2 活動、製品、サービスが生物 多様性に与える著しいインパクト	ページ17-18, 28-35, 89, 97, 103
	304-3 生息地の保護・復元	ページ28-32, 35
	304-4 事業の影響を受ける地域に 生息するIUCNレッドリスト ならびに国内保全種リスト 対象の生物種	ページ30-32, 35
水資源		
GRI 3: マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	ページ9-13, 17-18, 20-22, 25, 36-43, 84-85, 116, 120
GRI 303: 水と廃水 2018	303-1 共有資源としての水との相互作用	ページ17-18, 36-43, 81 水資源 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/3_2/)
	303-2 排水に関連するインパクトの マネジメント	ページ42
	303-3 取水	ページ37-38, 43, 101, 123-125, 135 ESGデータ集 環境(水資源) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	303-4 排水	ページ37-38, 43, 123-124, 126, 133, 135 ESGデータ集 環境(水資源) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	303-5 水消費	ページ123-125, 135

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
容器包装		
GRI 3： マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	ページ9-12, 19-22, 25, 44-57, 90, 95, 117, 120
GRI 301： 原材料 2016	301-1 使用原材料の重量または体積	ページ45, 56, 124, 126-127 ESGデータ集 環境(気候変動) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	301-2 使用したリサイクル材料	ページ22, 25, 45-46, 53-54, 127, 135 容器包装の持続可能な循環 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/3_3a/)
	301-3 再生利用された製品と梱包材	ページ56-57, 127 容器包装の持続可能な循環 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/3_3a/)
気候変動		
GRI 3： マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	ページ9-16, 20-22, 25, 58-71, 73-103
GRI 201： 経済パフォーマンス 2016	201-2 気候変動による財務上の影響、 その他のリスクと機会	ページ14-15, 20, 73-103 シナリオ分析 (TCFD) (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/tcfcd/)
GRI 302： エネルギー 2016	302-1 組織内のエネルギー消費量	ページ59, 71, 121, 124, 128, 131 ESGデータ集 環境(気候変動) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	302-2 組織外のエネルギー消費量	ページ68, 131
	302-3 エネルギー原単位	ページ135
	302-4 エネルギー消費量の削減	ページ121, 124, 128
	302-5 製品およびサービスの エネルギー必要量の削減	ページ68, 131
GRI 305： 大気への排出 2016	305-1 直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope1)	ページ70, 99, 121-122, 128-130 ESGデータ集 環境(気候変動) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	305-2 間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope2)	ページ70, 99, 121-122, 129-130 ESGデータ集 環境(気候変動) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
GRI 305： 大気への排出 2016	305-3 その他の間接的な 温室効果ガス (GHG) 排出量 (Scope3)	ページ15, 59, 70, 99-100, 121-122, 129-130 ESGデータ集 環境(気候変動) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	305-4 温室効果ガス (GHG) 排出原単位	ページ71, 121-122, 127-128, 135 ESGデータ集 環境(気候変動) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	305-5 温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	ページ21, 59, 63-64, 66-67, 70-71, 99, 121-122, 130 気候変動の克服 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/3_4a/)
	305-6 オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	ページ133
	305-7 窒素酸化物 (NOx)、 硫黄酸化物 (SOx)、および その他の重大な大気排出物	ページ124, 133-134 ESGデータ集 環境(廃棄物削減と汚染防止) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
廃棄物・汚染防止		
GRI 3： マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	ページ9-12, 19-22, 25, 34, 44-57, 107, 117, 120
GRI 306： 廃棄物 2020	306-1 廃棄物の発生と廃棄物関連の 著しいインパクト	ページ34, 46, 89, 103, 107
	306-2 廃棄物関連の著しい インパクトの管理	ページ11, 18-22, 34, 44-55, 89, 107
	306-3 発生した廃棄物	ページ121, 124, 133, 135 ESGデータ集 環境(廃棄物削減と汚染防止) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
	306-4 処分されなかった廃棄物	ページ57, 121, 124, 127, 133, 135 ESGデータ集 環境(廃棄物削減と汚染防止) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/)
GRI 306： 廃棄物 2020	306-5 処分された廃棄物	ページ121, 124, 133
GRI 307： 環境コンプライ アンス 2016	307-1 環境法規制の違反	ESGデータ集 環境(環境マネジメント) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html)

GRI内容索引 スタンダード	開示事項	ページ番号またはURL (日本語版)
サプライチェーン		
GRI 3: マテリアルな項目 2021	3-3 マテリアルな項目のマネジメント	ページ9-22, 25, 108-109 2022年ー2024年CSVコミットメント一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/commitment/) 持続可能なサプライチェーン (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/procurement/)
GRI 308: サプライヤーの 環境面の アセスメント 2016	308-2 サプライチェーンにおける マイナスの環境インパクトと 実施した措置	ページ15, 17-18, 28, 32, 34, 37-38, 46, 89-90, 103 ESGデータ集 社会 (サプライヤー) (https://www.kirinholdings.co.jp/csv/esg_gri/esg.html)

TCFD勧告 推奨開示索引 (2017年版)

推奨開示	ページ番号
ガバナンス	a) 気候関連リスク・機会に関する取締役会の監視体制 ページ75, 77, 105-106
	b) 気候関連リスク・機会の評価・管理における経営者の役割 ページ75, 77, 105-106
戦略	a) 組織が特定した、短期・中期・長期の気候関連リスク・機会 ページ14, 20, 75, 78-97
	b) 気候関連リスク・機会が組織の 事業、戦略、財務計画に及ぼす影響 ページ14, 60, 75-76, 78-97, 99
	c) 2℃以下のシナリオを含む様々な気候関連シナリオを 考慮した上での、組織戦略のレジリエンス ページ10, 14-16, 59-61, 73-76, 78-97
リスクマネジメント	a) 気候関連リスクを特定・評価するための組織のプロセス ページ75, 98
	b) 気候関連リスクを管理するための組織のプロセス ページ75, 98
	c) 気候関連リスクを特定・評価・管理するプロセスが、 組織の総合的なリスク管理にどのように統合されているか ページ75, 98
指標と目標	a) 組織が自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、 気候関連リスク・機会を評価する際に用いる指標 ページ14-16, 21-22, 25, 59-61, 70-71, 75, 99-101, 127-130
	b) スコープ1、スコープ2、および該当する場合はスコープ3の GHG排出量、および関連リスク ページ15-16, 22, 25, 59, 70-71, 75, 99-101, 127-130
	c) 気候関連リスク・機会を管理するために組織が用いる目標、 およびその目標に対する実績 ページ14-16, 21-22, 25, 59-61, 70-71, 75, 99-101, 127-130

SASBスタンダード (2018年10月版) 対照表

食品・飲料セクター／アルコール飲料産業
2018年10月版

サステナビリティ開示トピックと会計指標

トピック	会計指標	コード	開示箇所
エネルギーマネジメント	(1)総エネルギー消費量、(2)グリッド電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合※a	FB-AB-130a.1	P.71, P.124, P.128
ウォーターマネジメント	(1)総取水量、(2)水の総消費量、それぞれの水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の割合※b	FB-AB-140a.1	P.101, P.124
	ウォーターマネジメント上のリスクの説明、およびリスク軽減に向けた戦略と取り組みに関する議論	FB-AB-140a.2	P.10, P.18-19, P.21-23, P.36-43, P.73-85, P.101, P.106
責任ある飲酒とマーケティング	法定飲酒可能年齢以上の個人に行われた広告のインプレッションの割合※c	FB-AB-270a.1	n/a
	業界または規制によるラベル表示／マーケティング規約に対する違反の件数※d	FB-AB-270a.2	ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
	マーケティングおよび／またはラベル表示慣行に関連する法的措置による金銭的損失の総額※e	FB-AB-270a.3	ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
	責任ある飲酒を推進する取り組みについての説明	FB-AB-270a.4	酒類メーカーとしての責任(私たちのCSVコミットメント) (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/commitment/#headline-1617243184) 酒類メーカーとしての責任(方針と体制) (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/alcology/policies/) アルコール関連問題への対応 (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/alcology/0_1/)
包装のライフサイクルマネジメント	(1)包装容器の総重量、(2)リサイクルおよび／または再生可能資材から作られた割合、(3)リサイクル可能、再利用可能、および／または堆肥化可能な割合※f	FB-AB-410a.1	P.23, P.45, P.56-57, P.124, P.126-127
	包装容器のライフサイクル全体における環境負荷低減戦略の議論	FB-AB-410a.2	P.10, P.20-23, P.44-57
原材料のサプライチェーンにおける環境・社会への影響	サプライヤーの社会・環境責任監査の(1)不適合率、(2) (a) 重大な不適合および (b) 軽微な不適合に対する是正処置率※g	FB-AB-430a.1	持続可能な調達推進に向けた取り組み (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/procurement/promotion/) ESGデータ集(社会、サプライヤー) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
原材料調達	水ストレスが「高い」「極めて高い」地域から調達した飲料原材料の割合※h	FB-AB-440a.1	P.38
	最重要な飲料原材料のリスト、および環境・社会的配慮による調達リスクの説明	FB-AB-440a.2	P.18-19, P.21, P.26-35, P.36-40

活動指標

活動指標	コード	開示箇所
販売容量※i	FB-AB-000.A	P.124
生産拠点数※j	FB-AB-000.B	P.123 グループ会社一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/profile/organization/)
総走行距離※k	FB-AB-000.C	P.129

※a グリッド電力と再生可能エネルギーの割合は使用量から推計可能。

※b 水の総消費量は(用水使用量－排水量)で推計可能。

※c 開示していない。

※d 酒類についてのみ開示している。

※e 金銭的損失額は開示していない。また、酒類についての一部違反案件は注記に参照URLを記載している。

※f リサイクル素材の含有量割合は一部容器のみ開示している。

※g サプライヤーのセルフアセスメント実施率は開示しているが、不適合の割合は開示していない。不適合があった場合は、是正依頼を行っている。
※h 水ストレスが高い地域からの調達割合は開示していないが、国別の水ストレスと、国別の原料農産物生産地における水使用量およびその原料農産物別割合は開示している。

※i 販売容量は開示していないが、製品生産量は開示している。

※j 主要な製造拠点数を開示している。

※k 総走行距離は開示していないが、国内のみについて、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の特定荷主の報告対象範囲内での貨物輸送量(＝貨物重量×輸送距離)は開示している。

サステナビリティ開示トピックと会計指標

トピック	会計指標	コード	開示箇所
車両燃料マネジメント	車両燃料消費量、再生可能エネルギーの割合※a	FB-NB-110a.1	P.128-129
エネルギーマネジメント	(1)操業エネルギー消費量、(2)グリッド電力の割合、(3)再生可能エネルギーの割合※b	FB-NB-130a.1	P.71, P.124, P.128
ウォーターマネジメント	(1)総取水量、(2)水の総消費量、それぞれの水ストレスが「高い」「極めて高い」地域の割合※c	FB-NB-140a.1	P.101, P.124
	ウォーターマネジメント上のリスクの説明、およびリスク軽減に向けた戦略と取り組みに関する議論	FB-NB-140a.2	P.10, P.18-19, P.21-23, P.36-43, P.73-85,P.101,P.106
健康と栄養	(1)ゼロカロリー・低カロリー、(2)無糖、(3)人工甘味料を含む飲料、それぞれの収入※d	FB-NB-260a.1	ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
	消費者の栄養や健康上の懸念に関連する製品や原材料を特定し、管理するためのプロセスに関する議論※e	FB-NB-260a.2	コミットメントおよび成果指標一覧(1.1健康・未病領域におけるセルフケア支援) (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/csv_management/commitment/#headline-1617243715)
製品のラベル表示とマーケティング	(1)子ども向け、(2)食事に関するガイドラインに適合した商品を宣伝する子ども向け項目のインプレッションの割合※f	FB-NB-270a.1	n/a
	(1)遺伝子組み換え作物(GMO)、(2)遺伝子組み換えでない(non-GMO)と表示された製品からの収入※g	FB-NB-270a.2	n/a
	業界または規制によるラベル表示／マーケティング規約に対する違反の件数※h	FB-NB-270a.3	ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
	マーケティングおよび／またはラベル表示慣行に関連する法的措置による金銭的損失の総額※i	FB-NB-270a.4	ESGデータ集(社会、お客様) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
包装のライフサイクルマネジメント	(1)包装容器の総重量、(2)リサイクルおよび／または再生可能資材から作られた割合、(3)リサイクル可能、再利用可能、および／または堆肥化可能な割合※j	FB-NB-410a.1	P.23, P.45, P.56-57, P.124, P.126-127
	包装容器のライフサイクル全体における環境負荷低減戦略の議論	FB-NB-410a.2	P.10, P.20-23, P.44-57
原材料のサプライチェーンにおける環境・社会への影響	サプライヤーの社会・環境責任監査の(1)不適合率、(2)(a)重大な不適合および(b)軽微な不適合に対する是正処置率※k	FB-NB-430a.1	持続可能な調達推進に向けた取り組み (https://www.kirinholdings.com/jp/impact/procurement/promotion/) ESGデータ集(社会、サプライヤー) (https://www.kirinholdings.com/jp/investors/esg/esg/#headline-1607587059)
原材料調達	水ストレスが「高い」「極めて高い」地域から調達した飲料原材料の割合※l	FB-NB-440a.1	P.38
	最重要な飲料原材料のリスト、および環境・社会的配慮による調達リスクの説明	FB-NB-440a.2	P.18-19, P.21, P.26-35, P.36-40

活動指標

活動指標	コード	開示箇所
販売容量※m	FB-NB-000.A	P.124
生産拠点数※n	FB-NB-000.B	P.123 グループ会社一覧 (https://www.kirinholdings.com/jp/profile/organization/)
総走行距離※o	FB-NB-000.C	P.129

※a エネルギー種別の燃料消費量と、荷主としての輸送に伴うCO₂排出量は開示しているが、車両燃料消費量は開示していない。また、再生可能な車両燃料の割合は開示していない(使用していない)。

※b エネルギー種別の消費量の総量と工場からのGHG排出量は開示しているが、操業エネルギー消費量は開示していない。一部工場のデータ、購入電力量と再生可能電力量は開示している。

※c 水の総消費量は(用水使用量－排水量)で推計可能。国別の水ストレスは開示しているが、総取水量と総水消費量に対する水ストレス地域の割合は開示していない。

※d 無糖製品の売上高は開示していないが、低糖製品・低脂肪製品の売上高は開示している。人工甘味料を含む飲料の売上高は開示していない。

※e コミットメントは開示しているが、具体的な管理プロセスは開示していない。

※f 開示していない。

※g 開示していない。

※h 酒類についてのみ開示している。

※i 金銭的損失額は開示していない。また、酒類についての一部違反案件は注記に参照URLを記載している。

※j リサイクル素材の含有量割合は一部容器のみ開示している。

※k サプライヤーのセルフアセスメント実施率は開示しているが、不適合の割合は開示していない。不適合があった場合は、是正依頼を行っている。

※l 水ストレスが高い地域からの調達割合は開示していないが、国別の水ストレスと、国別の原料農産物生産地における水使用量およびその原料農産物別割合は開示している。

※m 販売容量は開示していないが、製品生産量は開示している。

※n 主要な製造拠点数を開示している。

※o 総走行距離は開示していないが、国内のみについて、「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の特定荷主の報告対象範囲内での貨物輸送量(＝貨物重量×輸送距離)は開示している。

環境報告ガイドライン (環境省 2018年版) 報告事項索引

章	節	報告事項	ページ番号
第1章 環境報告の 基礎情報	1. 環境報告の基本的要件	報告対象組織	ページ 3
		報告対象期間	ページ 3
		基準・ガイドライン等	ページ 3
		環境報告の全体像	ページ 3
	2. 主な実績評価指数の推移	主な実績評価指数の推移	ページ 22, 35, 43, 56-57, 70-71
第2章 環境報告の 記載事項	1. 経営責任者のコミットメント	重要な環境課題への対応に関する 経営責任者のコミットメント	ページ 4, 6
		事業者のガバナンス体制	ページ 77, 105-107
	2. ガバナンス	重要な環境課題の管理責任者	ページ 77
		重要な環境課題の管理における 取締役会及び経営業務執行組織の役割	ページ 77, 105-107
		ステークホルダーへの対応方針	ページ 110
	3. ステークホルダー エンゲージメントの状況	実施したステークホルダー エンゲージメントの概要	ページ 110-114
		リスクの特定、評価及び対応方法	ページ 14-20, 74-75, 78-92, 97-98
	4. リスクマネジメント	上記の方法の全社的な リスクマネジメントにおける位置付け	ページ 98
		事業者のビジネスモデル	ページ 5, 7, 10
	5. ビジネスモデル	バリューチェーンの概要	ページ 9, 10, 12, 26, 36, 44, 58
		グリーン調達の方針、目標・実績	ページ 9, 28-29, 32, 34, 48, 80, 108-109, 118-119
		環境配慮製品・サービスの状況	ページ 28-29, 32, 34, 48, 80, 89, 90, 94, 120

章	節	報告事項	ページ番号
第2章 環境報告の 記載事項	7. 長期ビジョン	長期ビジョン	ページ 9
		長期ビジョンの設定期間	ページ 9, 21
		その期間を選択した理由	ページ 74, 105
	8. 戦略	持続可能な社会の実現に向けた 事業者の事業戦略	ページ 8-20, 26-27, 36-37, 44-45, 58-59, 75-76, 78-97
		事業者が重要な環境課題を 特定した際の手順	ページ 9, 76, 105 キリンググループ環境報告書 2021 ページ 9
	9. 重要な環境課題の特定方法	特定した重要な環境課題のリスト	ページ 9, 20-21
		特定した環境課題を重要であると 判断した理由	ページ 9-10, 74
		重要な環境課題のバウンダリー	ページ 9
	10. 事業者の重要な環境課題	取組方針・行動計画	ページ 9-10, 12-21
		実績評価指標による 取組目標と取組実績	ページ 14-19, 21-22, 25, 27, 37, 45, 59, 99-101
		実績評価指標の算定方法	ページ 121
		実績評価指標の集計範囲	ページ 121-123
		リスク・機会による財務的影響が大きい 場合は、それらの影響額と算定方法	ページ 74, 78-97
		報告事項に独立した第三者による保証が 付与されている場合は、その保証報告書	ページ 153

第三者保証報告書



独立した第三者保証報告書

2022 年 6 月 15 日

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長 磯崎 功典 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町一丁目9番7号
代表取締役 

当社は、キリンホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの依頼に基づき、会社が作成したキリングループ環境報告書 2022(以下、「環境報告書」という。)に記載されている 2021 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までを対象とした マークの付されているキリングループのスコープ 1 排出量及びスコープ 2 排出量、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社及びメルシャン株式会社のスコープ 3 排出量(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

会社の責任
会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める規準」という。環境報告書に記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

当社の責任
当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準 (ISAE) 3000「適正財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」及び ISAE 3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主として環境報告書上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その信頼性は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- 環境報告書の作成・開示方針についての質問及び会社の定める規準の検証
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める規準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合及び再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した協和ファーマケミカル株式会社における現地往査の代替的な手続としての質問及び証拠等の文書の閲覧
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論
上述の保証手続の結果、環境報告書に記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める規準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は見えなかった。

当社の独立性と品質管理
当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第 1 号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規程の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以 上



幸せを運ぶ 聖獣麒麟 不履生蟲、不踐生草 (せいちゅうをふまず、せいそうをふまず)

吉事の前触れとされる聖獣「麒麟」は、地に足を下ろさず、虫を踏まず草を折らないと言われています。心優しい麒麟は、豊かな自然環境を次世代につなげていくキリングループのシンボルです。

キリングループの環境の取り組みは、下記のウェブサイトです。

<https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/>

